

# 情報モラル教育に関する研究

## －児童生徒の情報モラルに関する意識調査と情報モラル教育の在り方－

平成30年度から本年度までの3年間で、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校における発達段階に応じた児童生徒の情報モラル教育に関する研究を行った。情報モラル教育に関する基礎資料とするため、令和元年度に「児童生徒の情報モラルに関する意識調査」を実施し、子どもたちの情報機器の利用の実態と意識を把握した。また、情報モラル教育に効果のある年間指導計画を作成した。さらに、情報モラル教育の意識を広める取組として、教育者や保護者にもつながる効果的な指導の在り方を含めた授業実践を行い検証した。

＜検索用キーワード＞ 情報モラル教育 スマートフォン インターネットによるトラブル  
授業実践 意識調査 年間指導計画 ICT

### 研究協議会顧問

金城学院大学国際情報学部国際情報学科教授 長谷川元洋（平成30年度、令和元、2年度）

### 研究協議会委員

北名古屋市立師勝東小学校教諭	坪井 龍一（平成30年度、令和元、2年度）
大府市立大府南中学校教諭(現大府市立大府中学校)	稲垣 研作（平成30年度、令和元、2年度）
県立名古屋西高等学校教諭	渡邊 宏晴（平成30年度、令和元、2年度）
県立小牧特別支援学校教諭	林 昌弘（平成30年度、令和元、2年度）
総合教育センター研究指導主事(現県立猿投農林高等学校教頭)	安藤 学（平成30年度）
総合教育センター副主任研究指導主事(現高浜市立高取小学校教頭)	中井 滋（平成30年度、令和元年度）
総合教育センター研究指導主事(現教育企画課教育企画主事)	夏目 裕一（平成30年度、令和元年度主務者）
総合教育センター研究指導主事	堀場 雅博（平成30年度）
総合教育センター研究指導主事	富安 伸之（令和元、2年度）
総合教育センター研究指導主事	太田 恵里（令和2年度）
総合教育センター研究指導主事	松本 英二（令和2年度）
総合教育センター研究指導主事	雨宮 永（令和元、2年度主務者）

## 1 はじめに

社会的にICTの活用が急速に発展している。そして、私たちの生活の中でも利用年齢の低年齢化や情報端末の所有率の増加が顕著に現れている。一方で情報機器に関連したトラブルの増加、長時間利用やインターネットへの依存に対する危険性が指摘され、小学校から高等学校までの発達段階に応じた情報モラルの体系的な指導の重要性が更に高まっている。

当センターでは、平成13年から情報モラル教育の必要性を見だし、継続的な意識調査の実施、研究会議の開催、効果的な指導方法の研究や検証などを行ってきた。この成果は、年間指導計画例や授

業実践例などとして当センターのウェブページに公開している。

平成30年度からの3年間では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における発達段階に応じた児童生徒の情報モラルに関する意識調査分析を行った。その結果を基に、情報モラル教育に効果のある授業実践の研究を行った。さらに、情報モラル教育の意識を広める取組として、教育者や保護者にもつながる効果的な指導の在り方を検証した。

## 2 研究の目的

各発達段階における子どもたちの情報モラルに対する意識を調査分析し、それを基に小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において情報モラル教育に関する授業実践を行う。その成果を広く紹介することで県内の情報モラル教育の発展に資する。

## 3 研究の方法

平成30年度から令和2年度までの3年間を研究期間とし、大学教授からの指導を受けながら、研究協力委員と所員による共同研究を行った。

### (1) 児童生徒の情報モラルに関する意識調査の実施と分析

発達段階における情報モラルに関する意識を調査、分析するため愛知県内の1,676名の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒に対してアンケートを実施し、結果の集計、分析をした。

### (2) 児童生徒の発達段階に応じた指導内容に関する協議と年間指導計画の作成

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の協力委員が、各校種の状況について情報共有し、児童生徒の発達状況や情報モラル指導の現状を踏まえて、効果的な指導内容や年間計指導計画作成について研究協議した。

### (3) 研究協力委員による情報モラル授業の実践と検証

児童生徒の発達段階や心理的成長過程に応じた効果的な情報モラルの指導方法を研究するため、校種の異なる4名の研究協力委員が既存のコンテンツや新しい教材などを活用した授業実践を行い、指導の効果を検証する。令和元年度に実施した意識調査の結果から、心理的成長過程における傾向を分析し、教員や保護者に情報モラルの重要性を広める方法を検証する。情報モラル年間指導計画などの研究成果を総合教育センターに蓄積された「情報モラル教育のすすめ」に反映させ、より活用しやすいコンテンツの改善を図る。

## 4 研究の内容

### (1) 児童生徒の情報モラルに関する意識調査の実施と集計結果の分析

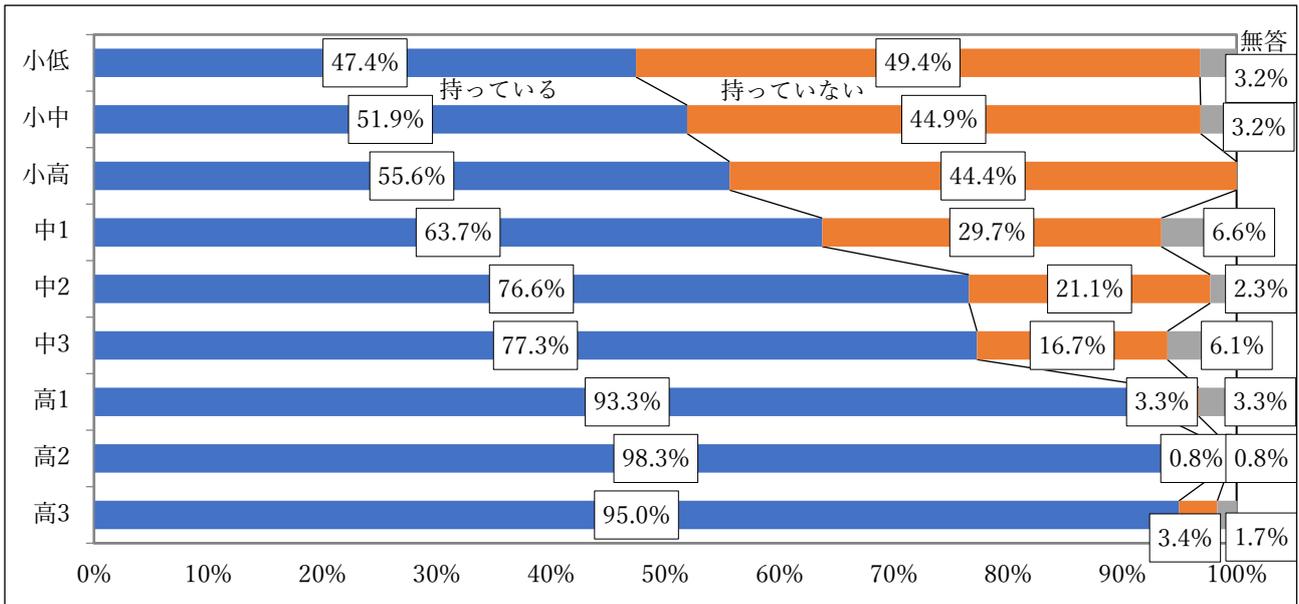
平成30年から3年をかけて研究を進める中で、令和元年度にアンケート調査を実施した。このアンケートは、特別支援学校を含む小学生474名、中学生842名、高校生360名、合計1,676名の児童生徒を対象とした。この集計結果の分析を行い、傾向と現状を見いだすことができた。

#### ア 情報端末所有の低年齢化

「あなたは自分専用のパソコン、タブレット端末やスマートフォンを持っていますか？」（資料1）という問いに対しては、小学校の低学年からおよそ50%の児童が所有していることが分かり、高学年になるにつれて所有率が増え、高校生では90%を超えて所有していることが分った。これは、過去の調査分析で予想されたように、小学校や中学校でも情報モラルに関する指導や教育の必要性を示唆す

る結果となっている。（※数値は少数点第2位以下四捨五入とし、以下同じ）

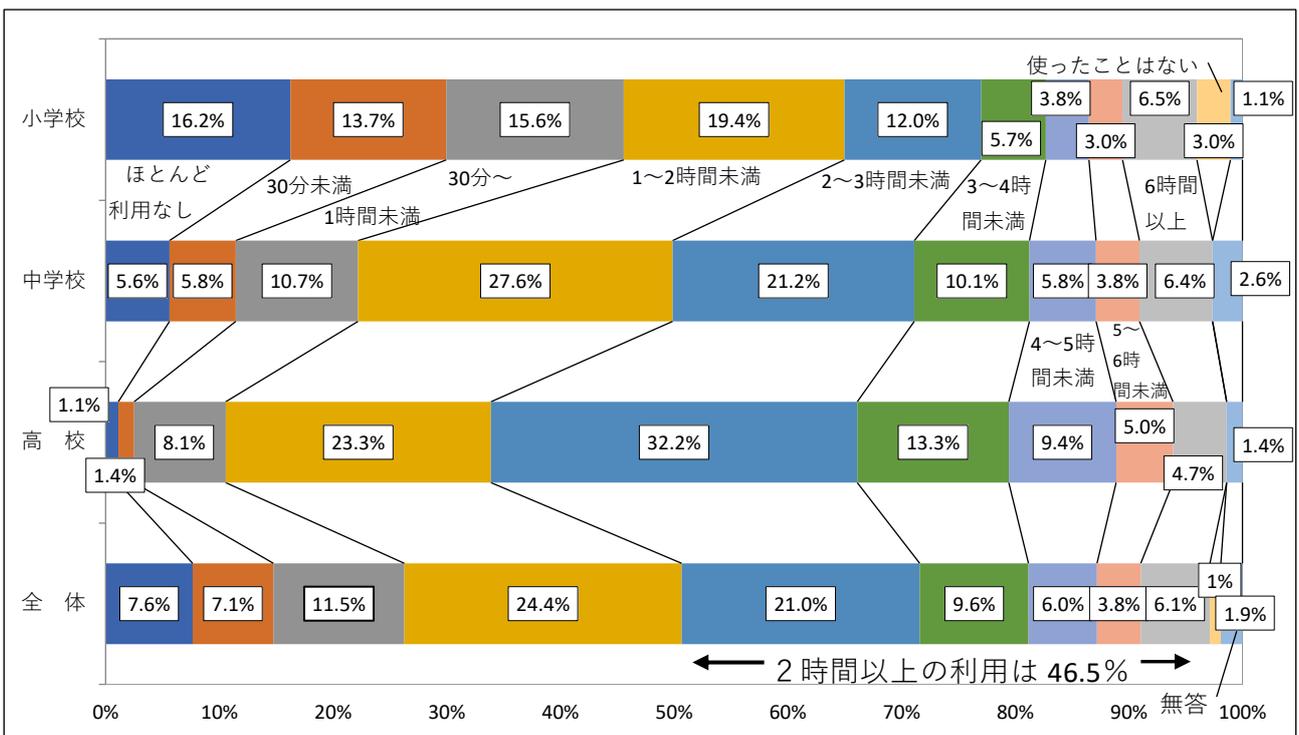
【資料1 自分専用のパソコン、タブレット端末やスマートフォンを持っているか】



イ 長時間の情報機器やインターネットの利用

「あなたの、パソコン、タブレット端末やスマートフォン、ゲーム機などの最近1週間（平日のみ）の1日の平均利用時間は次のどれですか？」（資料2）では、小・中学校では「1～2時間未満」の割合が最も多くなり、小学校は19.4%、中学校は27.6%。高校で最も多かったのは「2～3時間未満」で32.2%であった。全体の「2時間以上」は46.5%になり、利用時間が多い実態が浮かび上がるとともに学年が高くなるにつれて1日の平均利用時間も多くなる傾向があることが分かる。

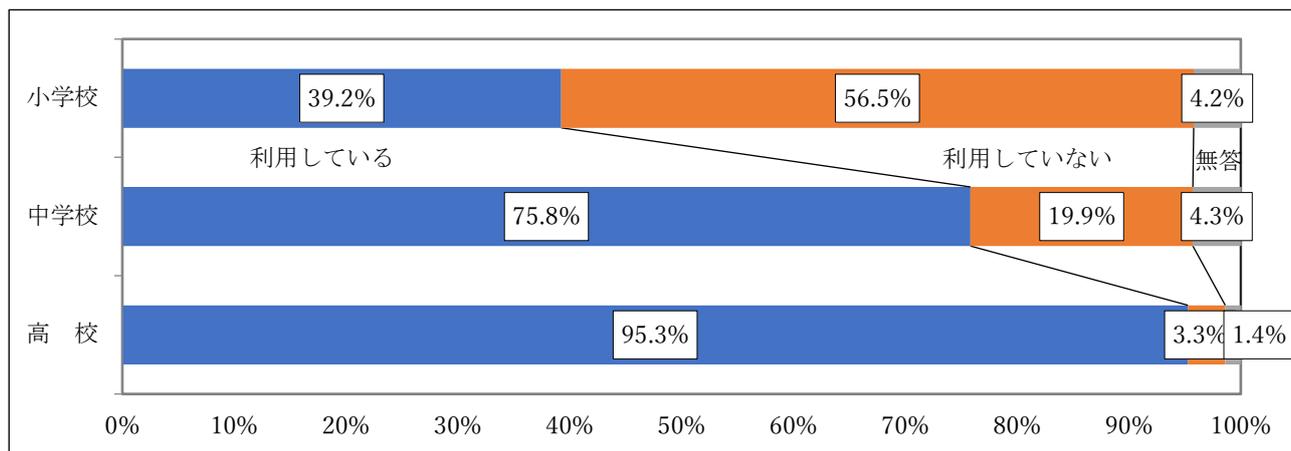
【資料2 パソコン、タブレット端末やスマートフォン、ゲーム機などの1日の平均利用時間】



### ウ SNS等を利用する上での経験

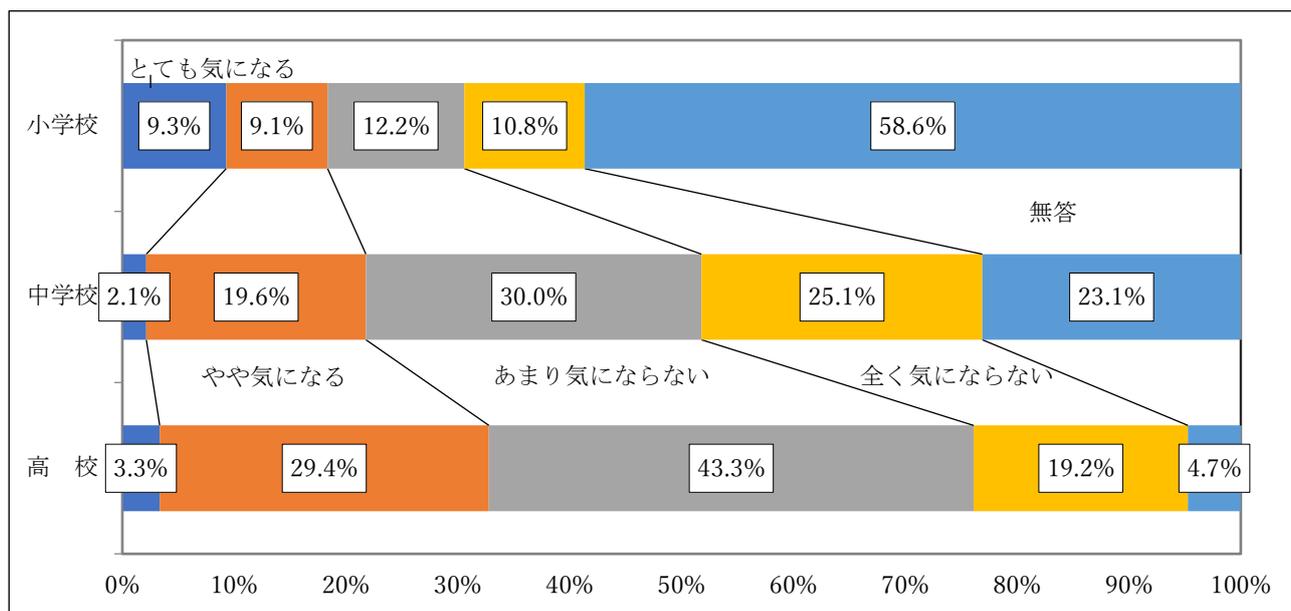
「あなたは、LINEやTwitterなどのSNSを利用していますか？」（資料3）の問いに対しては、「利用している」が小学校では39.2%、中学校では75.8%、高校では95.3%であった。SNSを利用して連絡を取り合ったり、記録や画像の撮影、動画の共有等の利用が考えられ、学年が進むにつれて端末を活用したコミュニケーションが図られていることを読み取ることができる。最近では中学生の間でTikTokが流行しているというメディアの報道も多く挙げられている。気軽に簡単に直感的な感覚で動画を上げることが可能であり、話題となる一方、個人情報流出や低年齢の視聴者に対する影響が問題視されている。

【資料3 LINEやTwitterなどのSNSを利用しているか】



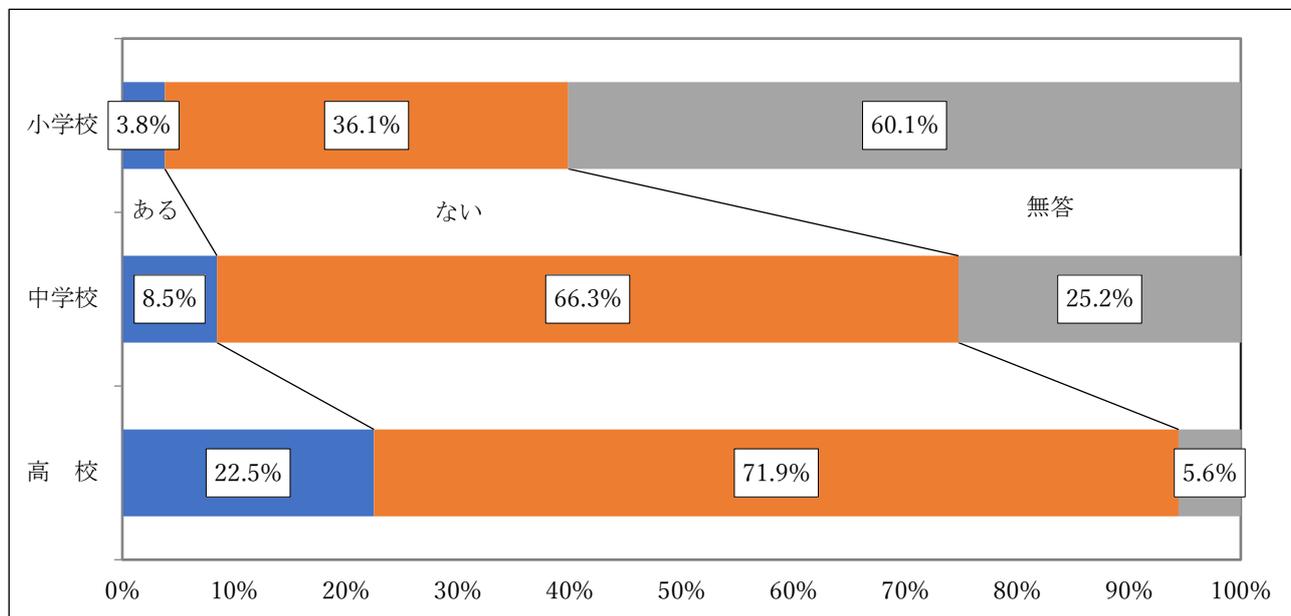
「あなたはLINEなどのメッセージアプリで返事が遅いと気になりますか？」（資料4）では、「とても気になる」と答えたのは、小学校で9.3%が目立つ結果となった。「とても気になる」、「やや気になる」を合わせた結果では、小学校が18.4%、中学校が21.7%、高校が32.7%になり、「あまり気にならない」、「全く気にならない」を合わせた結果は、小学校が23.0%、中学校が55.1%、高校が62.5%となった。メッセージアプリは始めたばかりの時に依存する傾向があるが、学年を進むにつれて気にならない割合が増えていることが分かった。

【資料4 LINEなどのメッセージアプリで返事が遅いと気になるか】



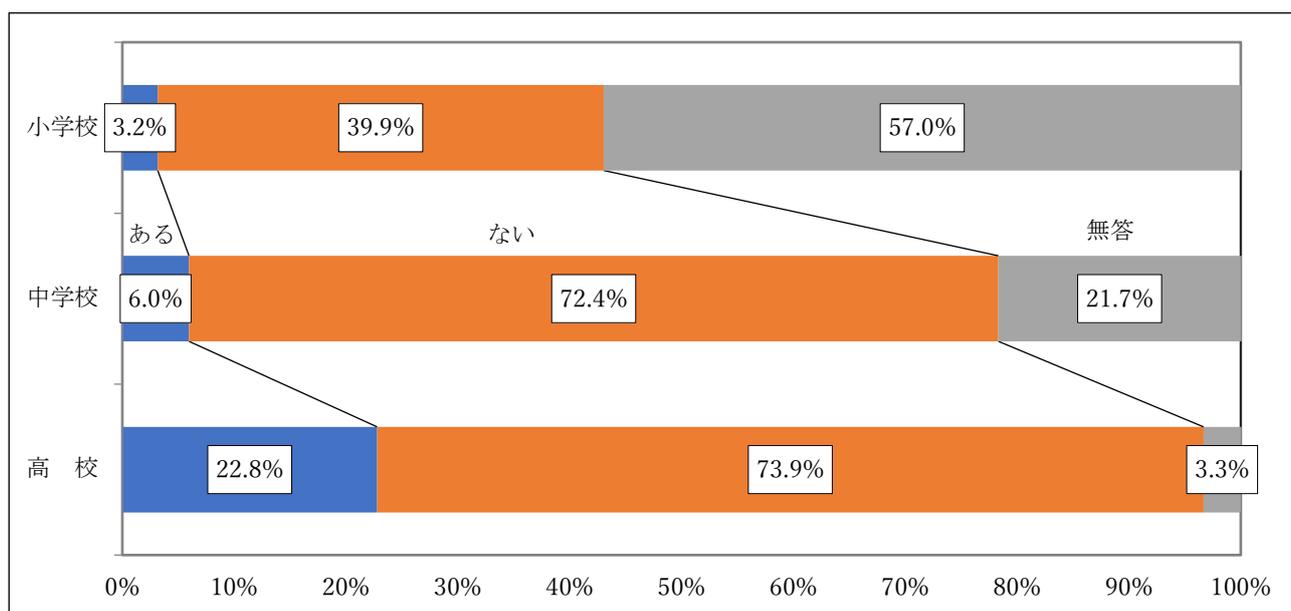
「あなたは、SNSで自分に対しての否定的な書き込みを見たことがありますか？」（資料5）では、「ある」と答えたのが、小学校では3.8%、中学校は8.5%、高校は22.5%であった。利用率が高い校種ほど、SNSによるコミュニケーションや誤解を生むメッセージの送受信などから問題に発展してしまうケースがある。

【資料5 SNSで自分に対しての否定的な書き込みを見たことがあるか】



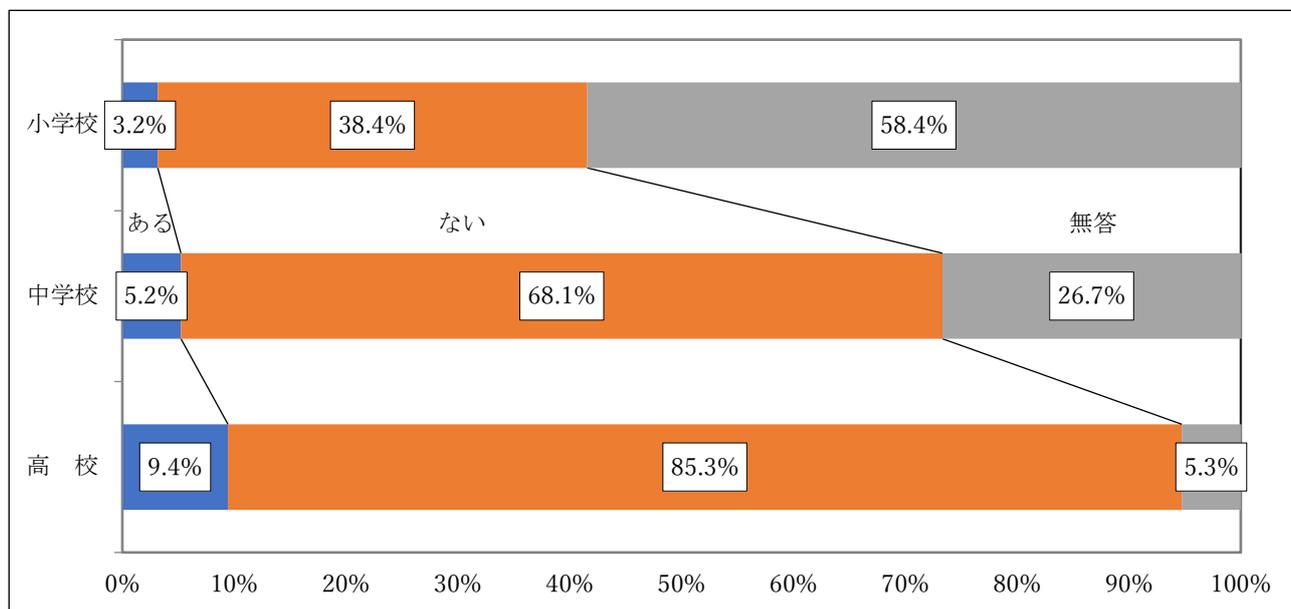
「あなたは、インターネットやSNSで知り合った人と実際にあったことがありますか？」（資料6）では、「ある」と答えたのが、小学校は3.2%、中学校は6.0%、高校は22.8%という結果となった。インターネットには匿名性がある。しかし、それを利用して自己防衛能力の乏しい児童生徒を狙い、インターネット上でなりすましをして誘い出すケースが少なくない。SNSでコミュニケーションをとり合い、しだいに共感や信頼するなどの気持ちを芽生えさせ、会いたくなる心境にさせるなど、情報端末の特性を逆手に取った犯罪はこれからも増えることが予想される。インターネットで知り合った人を簡単に信用して会うことは危険性が高いことを今後も繰り返し指導することが必要である。

【資料6 インターネットやSNSで知り合った人と実際にあったことがあるか】



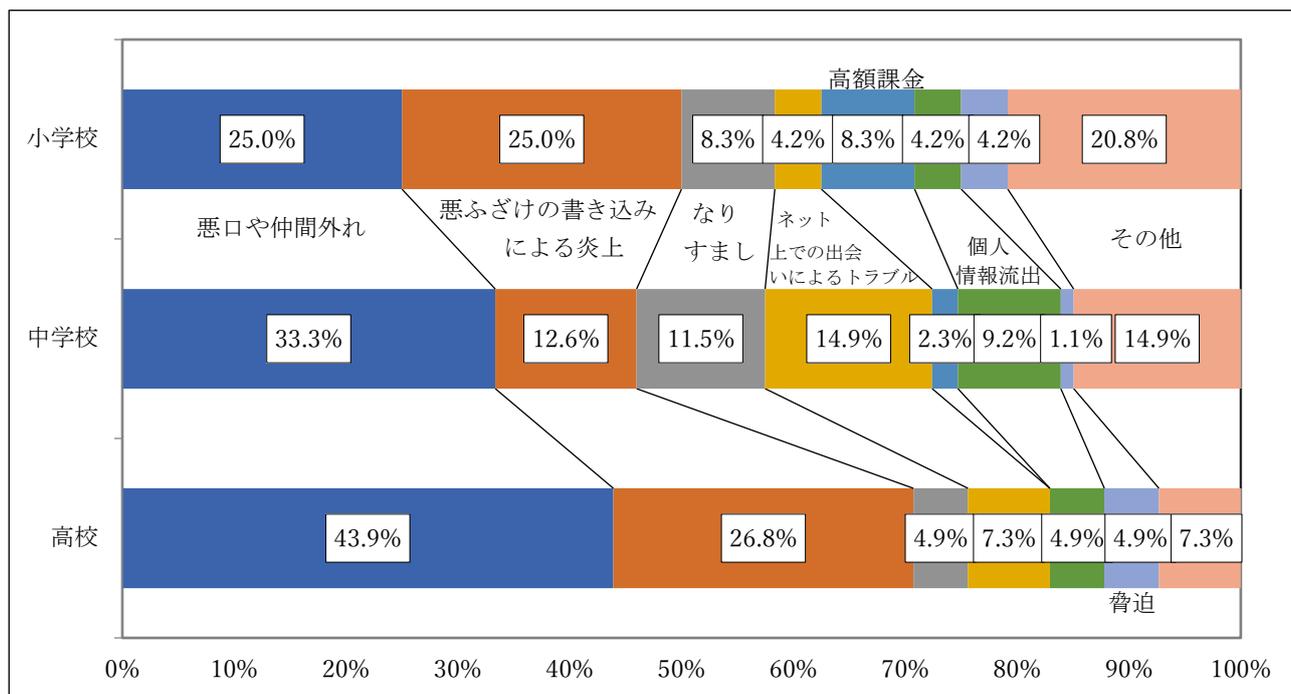
「あなたは、SNSに関わるトラブルの経験がありますか？」（資料7）では、「ない」と答える割合が多い中、小学校は3.2%、中学校は5.2%、高校は9.4%となり、トラブルの経験者がいるという実態が明らかになった。

【資料7 SNSに関わるトラブルの経験があるか】



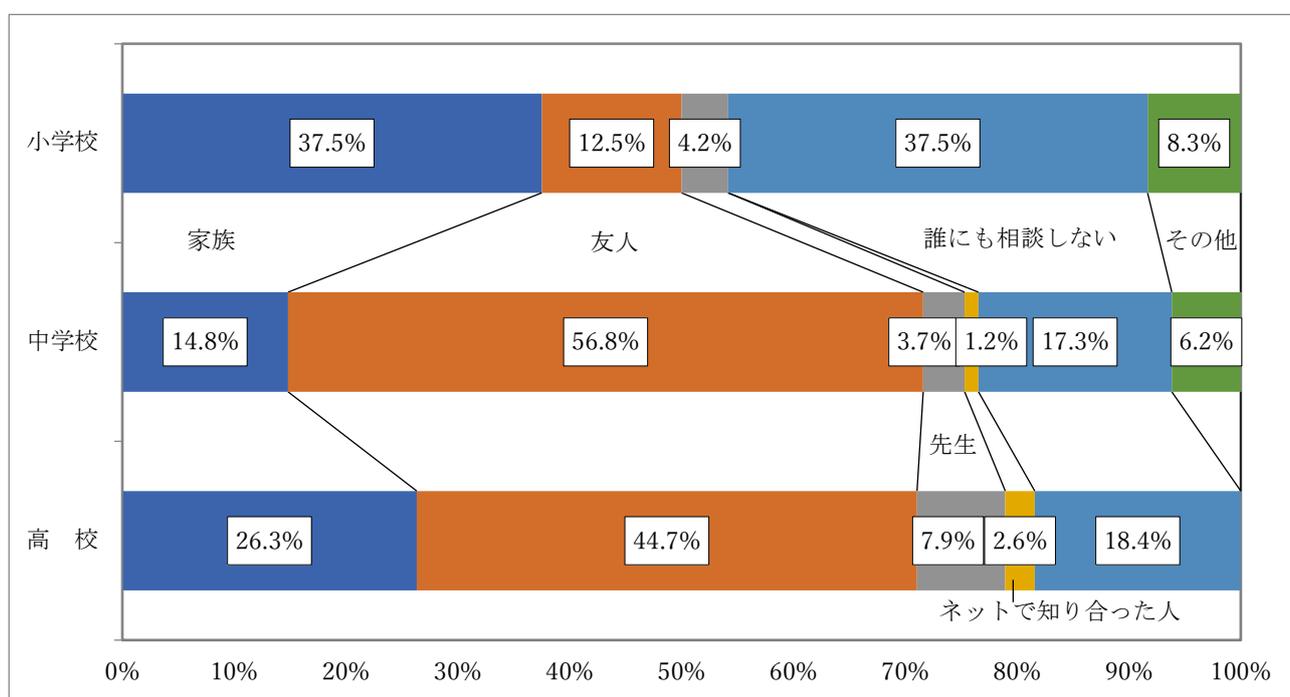
「ある」の回答者のみに更に詳しく見ると、どの校種も最も多いのは、「悪口や仲間外れ」、次に多いのは小学校、高校が「悪ふざけの書き込みによる炎上」となり、中学校は「ネット上での出会いによるトラブル」であった（資料8）。どのトラブルもわずかな割合であるが、実際にトラブルになっている実態があることを考慮するといずれも見逃すことのできない問題である。このようなトラブルを招かないためにもトラブルの未然防止としての情報モラル教育の在り方が問われている。

【資料8 SNSに関わるトラブルはどのようなものか（資料7で「ある」の回答者のみ）】



「あなたは、SNSに関わるトラブルを誰に相談しましたか？」（資料9）では、小学校は、「家族」が37.5%と最も多くなったのと同時に、「誰にも相談しない」も同率であった。中学校、高校は「友人」が最も多く、発達段階が上がると信頼できる身近な存在の高い割合が友人となることが分かる。SNSに関わるトラブルを大人に打ち明けられずに、誰にも相談せず児童生徒の中で抱え込んでしまう割合が高く、これからの情報モラル教育の新たなアプローチの仕方を考える必要が出てきていると言える。また、「ネットで知り合った人に相談する」割合は中学校で1.2%、高校は2.6%であった。わずかな数字だが、更にトラブルに巻き込まれる危険性をもっており、間違った行動で、事態を悪化させてしまう心配があることも浮き彫りとなった。相談できる家族や先生の存在が大切であり、トラブルに合ってしまった場合には、自分一人や友人で抱え込んだりしないで、適正な判断で正しく行動ができるように教育を進めていく必要がある。また、公的な相談サポート機関との連携も大切である。

【資料9 SNSに関わるトラブルを誰に相談したか（資料7で「ある」の回答者のみ）】

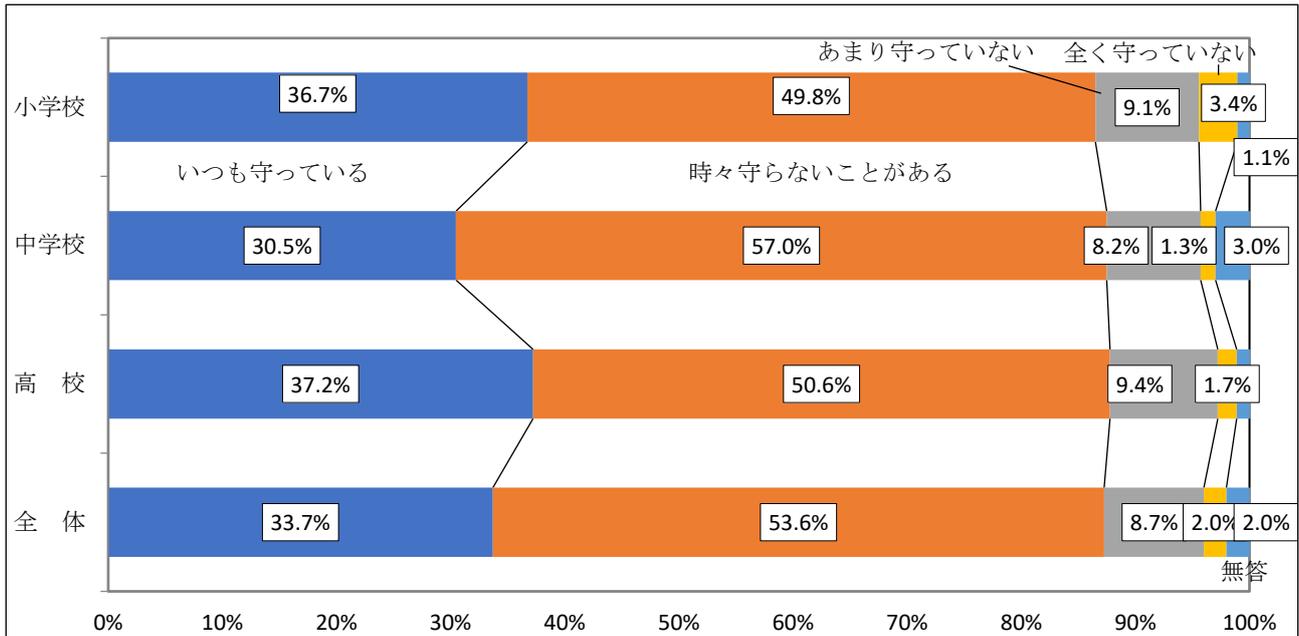


#### エ 家庭との協力の重要性

情報モラル教育を推進する上で最も重要なことは、家庭との協力である。ここ数年で家庭におけるインターネット環境は益々充実し、情報端末を手にする年齢も低年齢化していることから、家庭でルールを決めて端末を取り扱うことや、トラブルに巻き込まれないように教育するなどの行動が必要となっている。

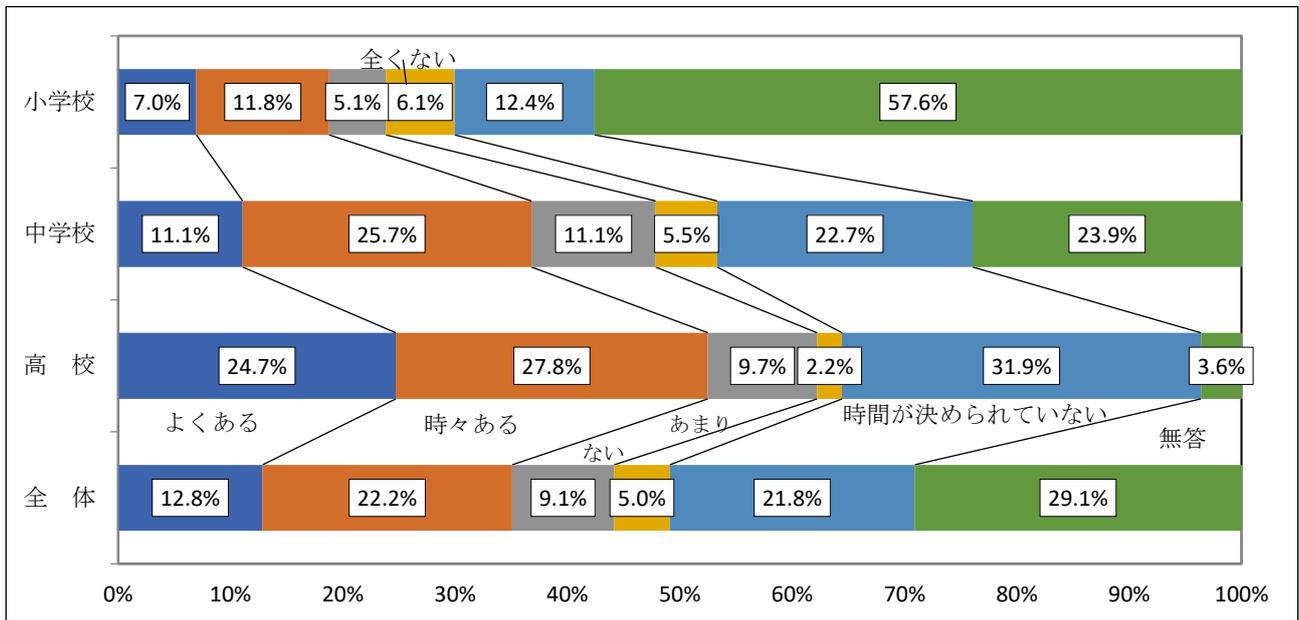
「あなたは、家庭で決められたルールを守っていますか？」（資料10）では、全体で見ると「いつも守っている」は33.7%であった。「時々守らないことがある」は53.6%で最も多く、「あまり守っていない」は8.7%、「全く守っていない」は2.0%であった。家庭でのルールは、児童生徒との認識と保護者との認識が食い違うことが多く、その認識のずれを常に確認するための話し合いの場や機会を増やすことで、共通認識することができる。

【資料10 家庭で決められたルールを守っているか】



「あなたは、決められた時間より長くSNSやゲームをしてしまうことがありますか？」（資料11）では、「よくある」が全体の12.8%、「時々ある」は22.2%であった。「時間が決められていない」についても21.8%であり、いずれも学年が高くなれば多くなるほど、家庭でのルールが曖昧なものとして受け止められている実態が浮き彫りとなった。

【資料11 決められた時間より長くSNSやゲームをしてしまうことがあるか】

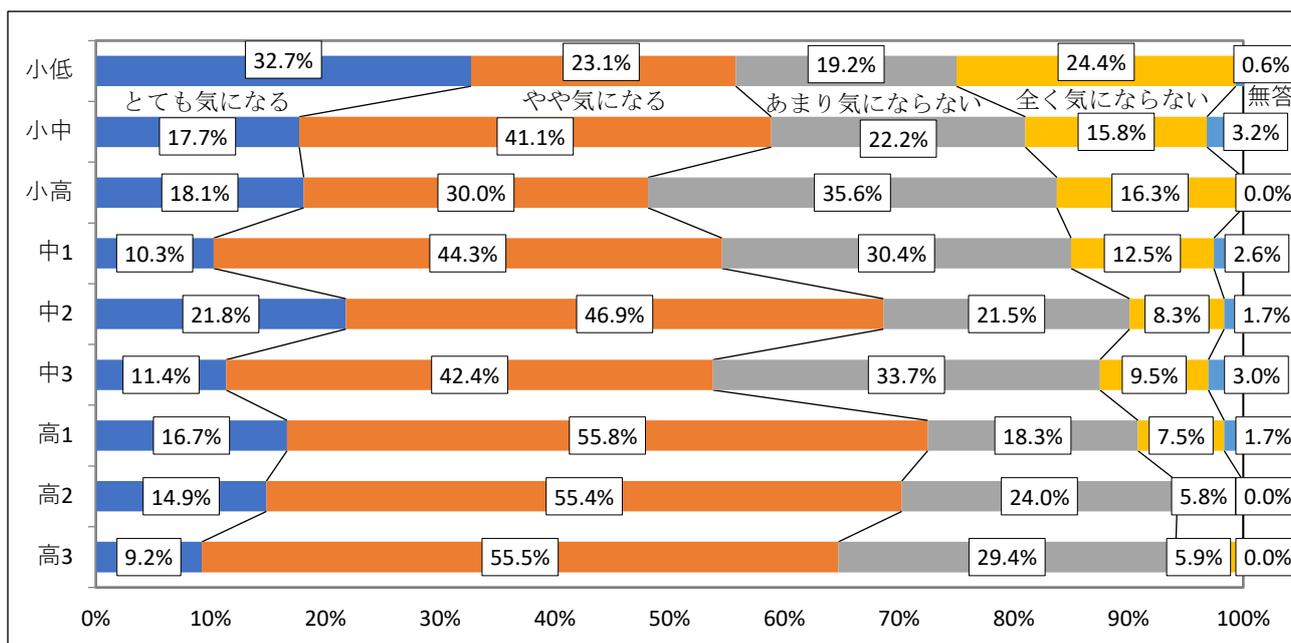


オ 発達段階における意識の特徴と情報モラル教育

「あなたは、学校や世の中で流行っているものが気になりますか？」（資料12）では、「とても気になる」を選択した児童生徒が最も多かったのは小学校低学年で32.7%、次いで中学校2年生の21.8%となった。やや気になるも合わせると、高校1・2年生と中学校2年生が多い値を示した。中学生から高校生にかけて携帯やスマートフォンを持ち始めることが多く、情報端末から流行っている

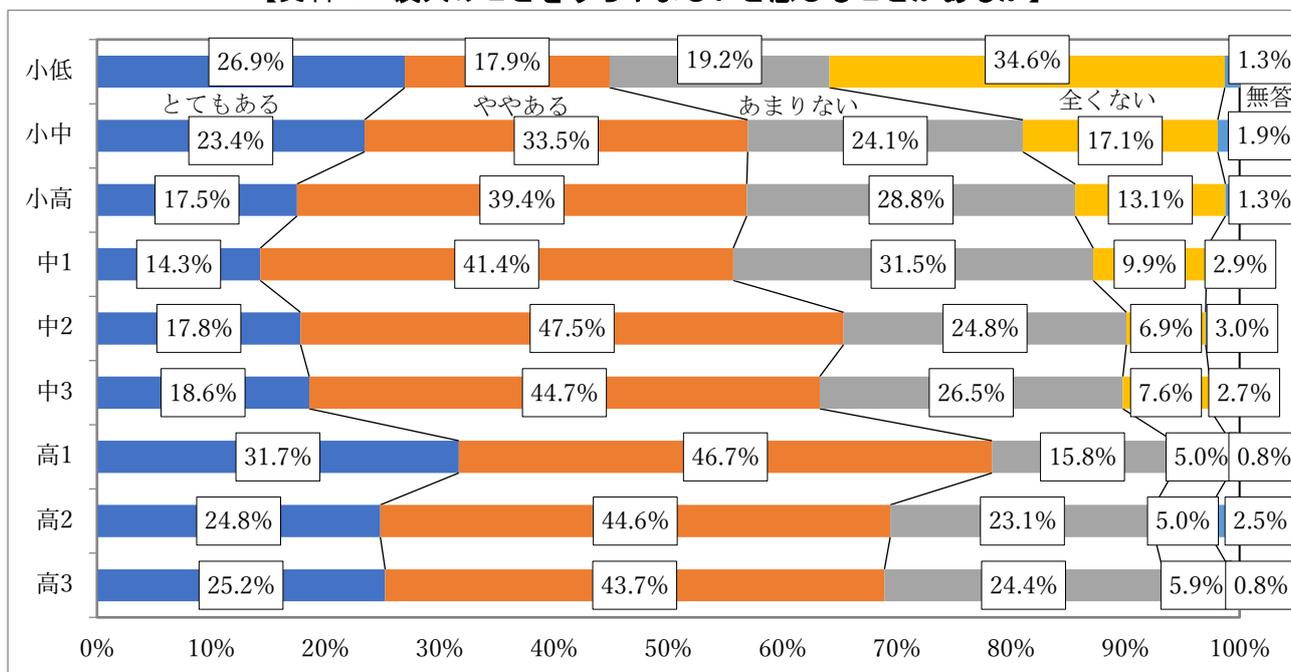
ものを調べたり友人と情報共有をしたりすることが想定される。

【資料12 学校や世の中で流行っているものが気になるか】



「あなたは、友人のことをうらやましいと感じることがありますか？」（資料13）では、「とてもある」を見ると、小学校低学年の26.9%から中学校1年生まで減少し、中学校2年生から上昇する傾向が見られた。「ややある」を加えると高校1年生をピークに膨らんでいる。この傾向を踏まえ、発達段階に応じて自分自身に向き合い、人格を形成するための基礎的な働きかけが必要になると考えられる。

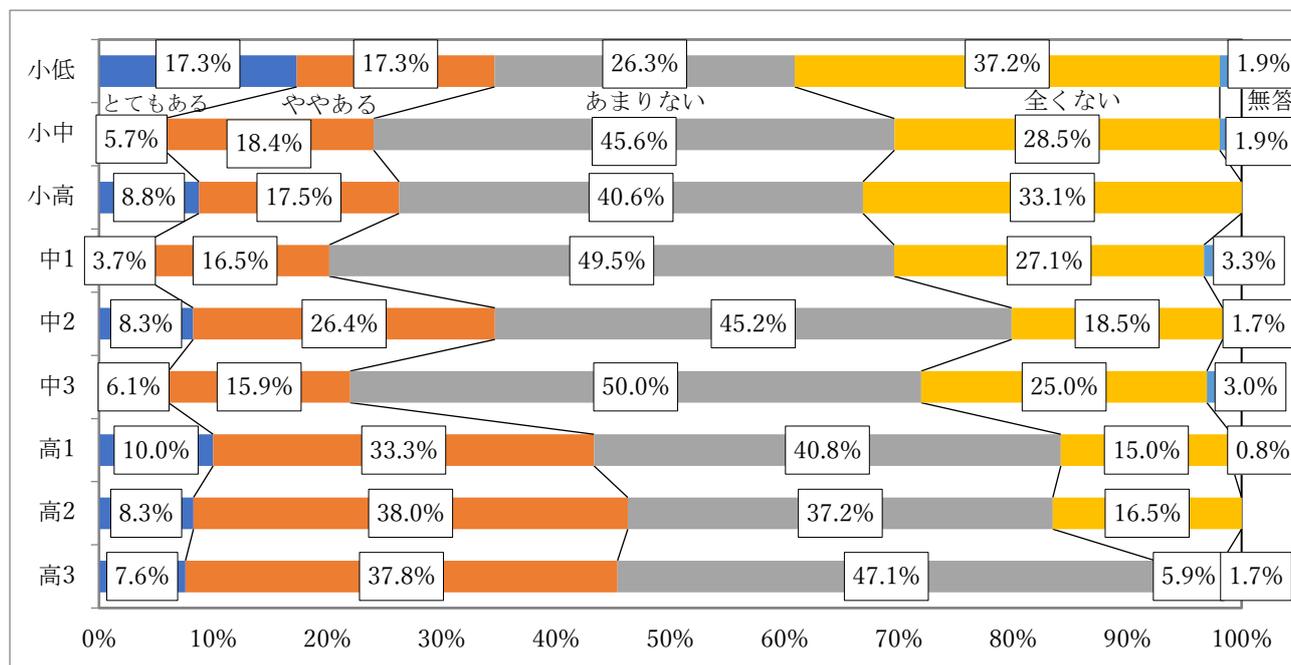
【資料13 友人のことをうらやましいと感じることがあるか】



「あなたは、多くの人に自分を知ってもらいたいと感じることがありますか？」（資料14）では、「とてもある」が最も多いのは小学校低学年で17.3%となった。「ややある」を合わせてみると、中学校2年生も高い値を示している。高校は平均して約45%となった。多くの人に自分を知ってもらい

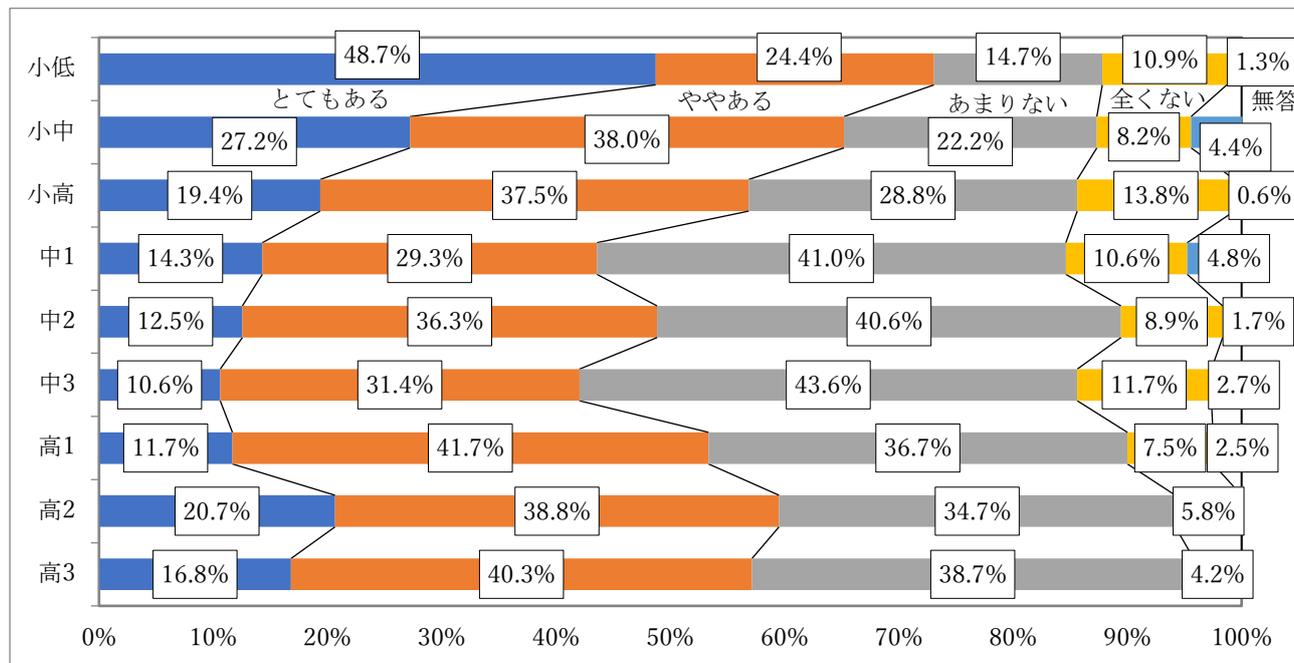
たいという感情は、承認欲求の表れであり、自己肯定感の低さが原因と考えられる。発達段階に応じた自己肯定感を育む教育が必要であるといえる。

【資料14 多くの人に自分を知ってもらいたいと感じることがあるか】



「あなたは、手に入りにくいものをすぐに欲しいと感じることがありますか？」（資料15）では、小学校の低学年が高い割合になっており、「とてもある」が48.7%、「ややある」が24.4%である。手に入りにくいものをすぐに欲しいと思う感情が低学年で高くなったことは、児童が素直に答えた結果であり、他の発達段階における意識調査の傾向の中でも顕著に現れている。ここに情報モラル教育のヒントと言えるポイントがあることを確認することができた。これから急速に発展する情報化社会

【資料15 手に入りにくいものをすぐに欲しいと感じることがあるか】

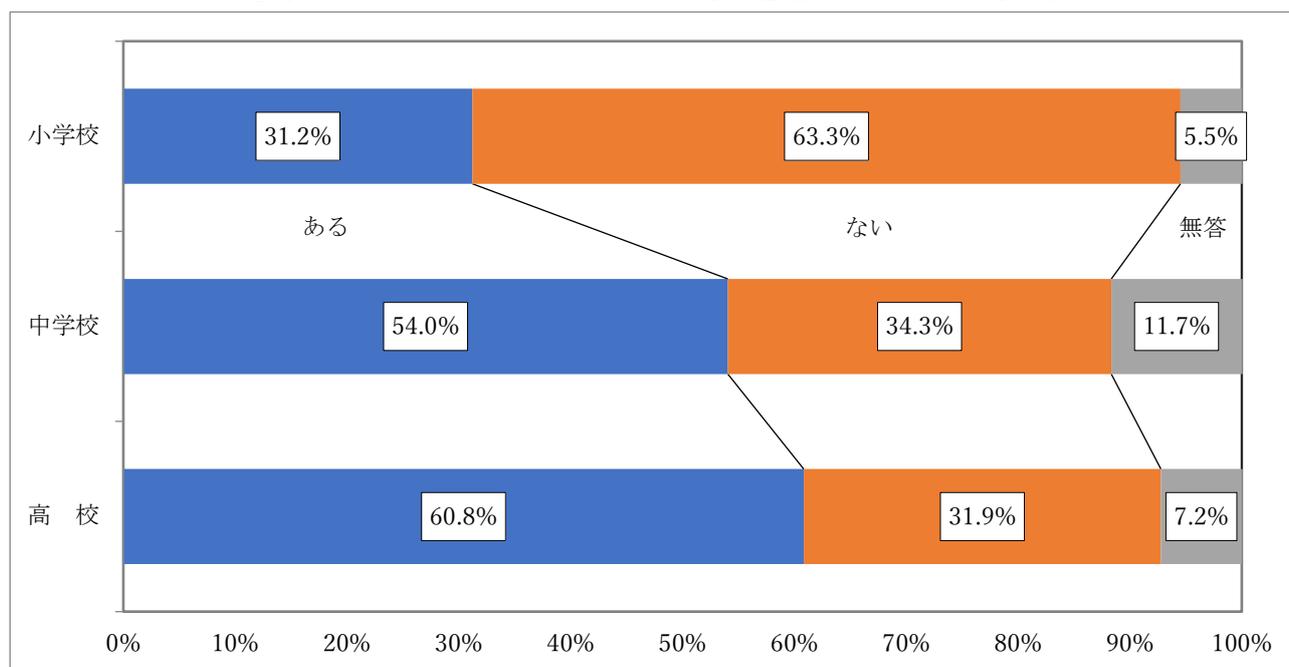


の中で、私たち教師は発達段階に合わせ、児童生徒が幼少期から自ら主体的に正しい判断をする力をもてるように育成することが求められている。

## カ 学校における情報モラル教育の重要性

「あなたは、学校で情報モラルに関する学習をしたことがありますか？」（資料16）では、「ある」と答えたのは、小学校で31.2%、中学校で54.0%、高校で60.8%、「ない」は小学校で63.3%、中学校で34.3%、高校で31.9%であった。小学校では「ない」の回答が多く、情報モラルの認識が低い実態が明らかになった。また、中学や高校では、情報モラル教育はしていても生徒の認識が希薄で身に付いていないことも考えられる。情報モラル教育は、地道に継続的に粘り強く推進していくことが必要である。

【資料16 学校で情報モラルに関する学習をしたことがあるか】



## (2) 児童生徒の発達段階に応じた指導内容に関する協議と年間指導計画の作成

私たちが過ごす社会は、情報環境が飛躍的に発達し、急速にネットワーク環境が整えられてきている。それに伴い、社会全体のデジタル化が進み、生活や暮らしの中にもテクノロジー技術が使われるようになってきている。AIを搭載したロボットが公的機関や商店街で人間生活をアシストし、教室でも教育の補助的なロボットの導入例が報告されている。情報端末が一人1台はスタンダードになり、1人で複数台を使いこなす時代の中で、児童生徒の取り巻く環境も大きく変移している。情報端末を使う年齢や所有する年齢が低年齢化し、大きく変容した情報化社会の中で、児童生徒が次々と出てくるSNSアプリなど、新たなインターネットによるトラブルに巻き込まれることを防ぐためにも、幼少期から情報モラル教育や情報活用能力育成の必要性が高まっている。

そのため、学校教育全体で情報モラル教育に取り組むことが求められており、計画的、体系的に進めることが必要である。

そこで、前回の研究と同様に文部科学省国立教育政策研究所における情報モラル教育実践ガイドに掲載されている「情報モラル指導モデルカリキュラム」を参考に、実態調査や研究協力委員の勤務校での指導事例等を考慮して、特別支援学校を含む小学校1年生から高等学校3年生までの年間指導計画例を作成した（補足資料1）。

児童生徒の情報モラルに関する意識調査結果を踏まえ、各学校において児童生徒の発達段階に応じ

た体系的・効果的な指導の検討を行った。

年間指導計画例では、各学年で、指導の時期、指導の対象（児童生徒、保護者）、企画の担当部署、内容、指導方法、設定理由などを記載している。校内において、いつ、誰に対し、何を指導するのか、誰が企画運営を担当するのかということを明確にすることによって、計画的で効率的な指導を行うことができる。また、設定理由も明記することで、指導の目標を明確化し、指導内容の形骸化を防ぎ、指導後に指導内容の改善に役立てられる。

小中学校においては、情報モラル指導カリキュラムチェックリストのA項目（学習指導要領に指導内容として記載されている教科等の内容）を掲載し、情報モラル教育の内容である2領域5分野を漏れなく指導できることとした。学校内の全ての教員が各教科における指導内容を理解することができ、それを踏まえて指導をすることをねらいとしている。高等学校においては、既に携帯電話やスマートフォンに関わる問題事例が多く発生しているため、問題事例の分析を基に、情報モラル意識が薄れないように継続的に短期間の情報モラル教育を行う機会を設けるなど工夫した。

### (3) 研究協力委員による情報モラル授業の実践と検証（補足資料2）

#### ア 小学校での実践例

意識調査及び事前アンケートの結果、児童のゲーム・スマートフォンの利用時間が長く、平日一日に3時間以上利用している児童が約半数いた。また、利用時間の長さが自分の生活に与える影響について理解していてもそれを改善できない児童がいるという実態があることが分かった。そこで、自身の利用状況について振り返るだけでなく、全国平均と比較し、ネット依存・ゲーム依存という言葉やインターネットやゲームが脳や身体、生活に与える影響などを取り上げる活動を行った。その後、インターネットやゲームのより適切な使い方を児童自身で考え話し合うことによって、自らルールをつくり守ろうとする自主的・実践的な態度を育てる場とした。これらの活動により、児童それぞれが、自ら考えたルールを保護者と共有し、どれだけ守られているかを確認することで、インターネットやゲームの適切な使い方について継続的に意識することができた。

#### イ 中学校での実践例

道徳の授業における情報モラル教育を充実させるために、生徒の心理的成長を分析し、発達段階に応じた指導についての検討を踏まえ、相手の立場に立ったときの気持ちについて話し合う活動を行った。知識としてのルールやマナーを身に付けている中学生において、情報モラル教育に関する事例は、学年ごとの心理的な発達段階によって大きく異なる。そこで、的確な時期に適切な指導を行うため、情報モラル年間指導計画へ反映できるように実践を進めた。また、“予測困難な時代”に対応できる力を育てるために、情報モラル教育に関する事例について、どのように対処するとよいか生徒に考えさせる取組を盛り込んだ。これらを踏まえ、目まぐるしい発展を遂げる情報社会において、適切なコミュニケーションができる生徒を育てることを重点目標として、指導計画の作成と授業実践を行った。

#### ウ 高等学校での実践例

年に一度、外部から講師を招いて講演会を行っている。しかし、講演直後は生徒の情報モラルに対する意識は高まるものの、時が経つにつれて意識が低下してしまう。そこで、継続的に短時間の情報モラル教育を実施することが適切であると考え、授業の中で、教科指導の内容と情報モラルを関連付ける機会を設定した。1年目は情報モラル教材「ネット社会の歩き方」よりテーマを設定し、SNS上への誹謗中傷や動画の無断投稿について考える実践を行った。2年目は「あおり運転」や、「女児誘拐事件」に関する投稿から情報モラルについて理解を深める実践を行った。そして今年度は、厚生

労働省が開発した「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」から個人情報について理解を深める実践を行った。

#### エ 特別支援学校での実践例

情報モラルに関する課題を児童生徒が自らの問題として捉え、主体的な課題解決を促すための授業を実践した。児童生徒は、知識として得たことを実生活につなげることができない、経験不足のため問題として認知できない、障害特性上相手の立場に立って考えることが難しいなどの実態がある。そこで「ネット依存、ゲーム依存」を題材に、「質問作り：QFT（The Question Formulation Technique）」の手法を用いた。その結果、児童生徒が主体性をもち、自らの視点で自己の問題と向き合い解決するために考える姿を確認することができた。他者の意見を聞くことで少しずつ考えを広げ、最終的には解決策をまとめることができた。さらに、疑問点を述べる過程で生徒の心理的成長を見取することもでき、この手法の成果を得ることができた。

## 5 研究のまとめと今後の課題

今回の研究の成果としては、以下の3つがあげられる。

### (1) 児童生徒の情報モラルに関する実態把握

発達段階における情報モラルに関する意識についての調査と分析を行った。これは、小学校、中学校、高校、特別支援学校における全学年を対象にしたもので、情報端末利用の低年齢化が進んでいる実態を明らかにすることができた。また、小学校低学年、中学校2年生、高校1年生の調査結果に意識の特徴と傾向を見だし、情報モラル教育を重点的に行うタイミングとして効果的ではないかと仮説を立てることができた。

### (2) 情報モラル教育の年間指導計画例の提案

過去の研究に引き続き、情報モラル教育を計画的に推進するため、各校種の児童生徒の発達状況や情報モラル教育の現状を踏まえて、年間指導計画例を作成し、提案することができた。この年間指導計画案を参考に、各学校に応じた内容に修正し活用することで、計画的かつ効果的に情報モラル教育を進めることができる。

### (3) 情報モラル授業の実践と報告

児童生徒の発達段階や心理的成長過程に応じた効果的な情報モラル教育の指導方法を研究するため、既存のコンテンツや新しい教材などを活用した授業実践を行い、指導の効果を検証することができた。研究成果を総合教育センターに蓄積された「情報モラル教育のすすめ」に反映させ、より活用しやすいコンテンツとして改善を図ることができた。

### (4) まとめと今後の課題

発達段階における情報モラル教育に関する意識調査からさまざまな実態を捉えることにより、各発達段階における効果的な指導方法や指導の在り方を明らかにすることができた。これらの実践例は総合教育センターのウェブページにコンテンツとして掲載し、広く活用されるよう発信を行う。

今後の課題は、ますます加速する情報化社会において、児童生徒が幼少期から主体的に情報モラルを身に付けることができる効果的な指導方法を確立することであり、急速に発展する情報教育技術を生かしてどのように情報モラル教育を進めていくべきかが問われている。今までの研究成果を生かしつつ継続して情報モラル教育の推進と研究を深めていく必要がある。

## 6 おわりに

令和元年12月に文部科学大臣から、「子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～」というメッセージが配信された。この中で、「子どもたちがICTを適切に・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成していくことが重要」、「教員のICT指導力の向上、情報モラル教育をはじめとする情報教育の充実など、ハード・ソフト面から教育改革に取り組む」という記載がある。新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度は緊急事態宣言が発令されるなど、今までに経験のない事象が次々と展開され、児童生徒の学びをあらゆる手段で保障していくことになった。この中で、文部科学省のGIGAスクール構想が加速され、令和2年度の小学校の新学習指導要領全面実施に合わせ、一人1台端末の配備が急速に進むこととなった。この大きく変革する教育環境の中で、児童生徒と向き合い情報モラル教育を一層推進していく必要がある。

本研究は平成13年「情報教育推進のための調査研究」から始まり、情報教育部を中心として多くの研究協力員、所員とつないできたものである。過去の研究成果の蓄積は、情報モラル教育を推進していくに当たり、多くの先生方がすぐに活用できるようになっている。情報化社会における児童生徒の健全育成を持続可能なものとするため、多くの教育関係者がコンテンツを活用し、発達段階に応じた情報モラル教育を推進することを願う。

金城学院大学長谷川元洋教授には、研究の顧問として情報モラル教育の研究における授業実践の参観や意識調査の実施と分析、情報モラル教育の在り方まで御指導、御助言をいただいた。心より感謝申し上げますとともに厚く御礼申し上げます。

## 参考文献

- ・愛知県総合教育センター「情報モラル教育のすすめ」  
<https://apec.aichi-c.ed.jp/kenkyu/j-moral/index.html>
- ・愛知県総合教育センター「児童生徒の情報モラルの指導法に関する調査研究」愛知県総合教育センター紀要第103号 平成25年
- ・愛知県総合教育センター「情報モラル指導者養成の取組」愛知県総合教育センター紀要第105号 平成27年
- ・愛知県総合教育センター「児童生徒の情報モラルの指導法に関する調査研究」愛知県総合教育センター紀要第106号 平成28年
- ・内閣府「令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書」令和2年
- ・内閣府「青少年の安全・安心なインターネット利用環境整備に向けた施策の推進について」
- ・文部科学省「教育の情報化に関する手引き」令和元年
- ・文部科学省国立教育政策研究所「情報モラル教育実践ガイダンス」
- ・文部科学省ホームページ「GIGAスクール構想について」
- ・中野明（著）「マズロー心理学入門」

## 補足資料 1 年間指導計画例

## 補足資料 2 情報モラル教育授業実践報告

情報モラル年間指導計画例【小学校】

学年	月	対象		担当部署 教科名	授業名 時間	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカ リキュラ ムコード	モデルカリキュラム 中目標	理由・その他	
		児童	保護者									
1 年 生	4月		○	情報教育部	P T A総 会	全校	・資料配付 ・講話（校長）	・携帯電話やスマホの所持の傾向や、 問題となった事例の紹介と対策 ・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・P T A総会にて資料配付 ・情報モラル教育に対する理解と協 力の依頼とGW前後の問題行動を防ぐ ため	
	5月	○		1年生	道徳	クラス	・授業	・パソコンの使い方・マナー C（10） 規則の尊重	a1-1	約束や決まりを守る		
	6月											
	7月			○	情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・夏季休業中の問題行動を防ぐため
				○	情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・夏季休業中の問題行動を防ぐため
				○	生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による夏季休業中の生 活指導の講話として
	8月											
	9月											
	10月											
	11月	○			1年生	道徳	クラス	・授業	たり作りかえたりしてはいけない（著 作権）A（1） 善悪の判断、 自律、自由と責任	b1-1	人の作ったものを大切にできる心をもつ	
	12月			○	情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・情報モラル教育の中で、守るべきこと と家庭でのルール設定			・冬季休業中の問題行動を防ぐため
				○	情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ ・個人情報の保護	e1-2	知らない人に連絡先を教えない	・冬季休業中の問題行動を防ぐため
				○	生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による冬季休業中の生 活指導の講話として
	1月											
	2月											
3月			○	情報教育部 生徒指導部		クラス	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・春季休業中の問題行動を防ぐため	
			○	情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・春季休業中の問題行動を防ぐため	
			○	生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による春季休業中の生 活指導の講話として	

※網掛けは全校で一斉に実施する内容(保護者対象を除く)

情報モラル年間指導計画例【小学校】

学年	月	対象		担当部署 教科名	授業名 時間	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカ リキュラ ムコード	モデルカリキュラム 中目標	理由・その他	
		児童	保護者									
2 年 生	4月		○	情報教育部	P T A 総 会	全校	・資料配付 ・講話（校長）	・携帯電話やスマホの所持の傾向や、 問題となった事例の紹介と対策 ・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・P T A 総会にて資料配付 ・情報モラル教育に対する理解と協 力の依頼とGW前後の問題行動を防ぐ ため	
	5月	○		2年生	道徳	クラス	・授業	・パソコンの使い方・マナー C (10) 規則の尊重	c1-1	生活の中でのルールやマナーを知る		
	6月	○		2年生	道徳	クラス	・授業	・インターネットを利用する時の安全 と健康への配慮について A (1) 善悪の判断, 自律, 自由と 責任	f1-1	決められた利用の時間や約束を守る		
	7月		○		情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・夏季休業中の問題行動を防ぐため
			○		情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ	d1-1	大人と一緒に使い, 危険に近付か ない	・夏季休業中の問題行動を防ぐため
			○		生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による夏季休業中の生 活指導の講話として
	8月											
	9月											
	10月											
	11月											
	12月		○		情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・情報モラル教育の中で, 守るべきこ とと家庭でのルール設定			・冬季休業中の問題行動を防ぐため
			○		情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ ・個人情報の保護	d1-2	不適切な情報に出合わない環境で 利用する	・冬季休業中の問題行動を防ぐため
			○		生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による冬季休業中の生 活指導の講話として
	1月											
	2月											
3月		○		情報教育部 生徒指導部		クラス	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・春季休業中の問題行動を防ぐため	
		○		情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・春季休業中の問題行動を防ぐため	
		○		生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による春季休業中の生 活指導の講話として	

※網掛けは全校で一斉に実施する内容(保護者対象を除く)

情報モラル年間指導計画例【小学校】

学年	月	対象		担当部署 教科名	授業名 時間	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカ リキュラ ムコード	モデルカリキュラム 中目標	理由・その他	
		児童	保護者									
3 年 生	4月		○	情報教育部	P T A 総 会	全校	・資料配付 ・講話（校長）	・携帯電話やスマホの所持の傾向や、 問題となった事例の紹介と対策 ・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・P T A 総会にて資料配付 ・情報モラル教育に対する理解と協 力の依頼とGW前後の問題行動を防ぐ ため	
	5月	○		3年生	道徳	クラス	・授業	・インターネット利用上のルールとマ ナーを知り、身に付けること A（1） 善悪の判断、自律、自由と 責任	c2-1	情報の発信や情報をやりとりする 場合のルールやマナーを知り、守 る		
	6月											
	7月		○		情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・夏季休業中の問題行動を防ぐため
			○		情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ ・安全なインターネットの使い方	d2-1	危険に出合ったときは、大人に意 見を求め、適切に対応する	・夏季休業中の問題行動を防ぐため
			○		生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による夏季休業中の生 活指導の講話として
	8月											
	9月											
	10月											
	11月	○			3年生	道徳	クラス	・授業	・インターネットの情報の特性を知 り、真偽を確かめることの大切さにつ いて C（11） 規則の尊重	e2-1	情報には誤ったものもあることに 気付く	
	12月		○		情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・情報モラル教育の中で、守るべきこ とと家庭でのルール設定			・冬季休業中の問題行動を防ぐため
			○		情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ ・個人情報の保護	e2-2	個人の情報は、他人にもらさない	・冬季休業中の問題行動を防ぐため
			○		生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による冬季休業中の生 活指導の講話として
	1月											
	2月	○			3年生	総合的な 学習の時 間	クラス	・授業	・IDとパスワードの役割について （セキュリティ）	g2-1	認証の重要性を理解し、正しく利 用できる	・セキュリティーの一つとして知識を 身に付けるため
3月		○		情報教育部 生徒指導部		クラス	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・春季休業中の問題行動を防ぐため	
		○		情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・春季休業中の問題行動を防ぐため	
		○		生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による春季休業中の生 活指導の講話として	

※網掛けは全校で一斉に実施する内容(保護者対象を除く)

情報モラル年間指導計画例【小学校】

学年	月	対象		担当部署 教科名	授業名 時間	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカリ キュラム コード	モデルカリキュラム 中目標	理由・その他
		児童	保護者								
4 年 生	4月		○	情報教育部	P T A 総 会	全校	・資料配付 ・講話（校長）	・携帯電話やスマホの所持の傾向や、 問題となった事例の紹介と対策 ・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・P T A 総会にて資料配付 ・情報モラル教育に対する理解と協 力の依頼とGW前後の問題行動を防ぐ ため
			○	4年生	特別活動	学年	・学年集会	・学年経営方針，生活態度，情報モラ ル			・家庭生活に触れながらモラル（情報 モラル）の向上への意識を高めるため
	5月										
	6月	○		4年生	道徳	クラス	・授業	・メールで伝えるときに気をつけるこ と B（6） 親切，思いやり	a2-1	相手への影響を考えて行動する	
	7月		○	情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・夏季休業中の問題行動を防ぐため
			○	情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ ・安全なインターネットの使い方	d2-2	不適切な情報に出合ったときは， 大人に意見を求め，適切に対応す る	・夏季休業中の問題行動を防ぐため ・インターネットの利用が増えてくる ため
			○	生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による夏季休業中の生 活指導の講話として
	8月										
	9月										
	10月										
	11月	○		4年生	道徳	クラス	・授業	・作った人の気持ちを考えて行動する こと（著作権）A（1） 善悪の判 断，自律，自由と責任	b2-1	自分の情報や他人の情報を大切に する	
	12月		○	情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・情報モラル教育の中で，守るべきこ とと家庭でのルール設定			・冬季休業中の問題行動を防ぐため
			○	情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ ・インターネットを利用するときの健 康への配慮	f2-1	健康のために利用時間を決め守る	・冬季休業中の問題行動を防ぐため ・インターネットの利用が増えてくる ため
			○	生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による冬季休業中の生 活指導の講話として
	1月										
	2月		○	4年生	道徳	クラス	・授業	・ネットワークの公共性 C（11） 規則の尊重	i2-1	協力し合ってネットワークを使う	
			○	○	4年生	特別活動	学年	・授業 ・学年日より配付	・出前授業として「インターネット安全 教室」の実施 ・「インターネット安全教室」を受け て，家庭の協力を依頼		
	3月		○	情報教育部 生徒指導部		クラス	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・春季休業中の問題行動を防ぐため
		○	情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・春季休業中の問題行動を防ぐため	
		○	生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による春季休業中の生 活指導の講話として	

※網掛けは全校で一斉に実施する内容(保護者対象を除く)

情報モラル年間指導計画例【小学校】

学年	月	対象		担当部署 教科名	授業名 時間	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカ リキュラ ムコード	モデルカリキュラム 中目標	理由・その他	
		児童	保護者									
5 年 生	4月		○	情報教育部	P T A 総 会	全校	・資料配付 ・講話（校長）	・携帯電話やスマホの所持の傾向や、 問題となった事例の紹介と対策 ・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・P T A 総会にて資料配付 ・情報モラル教育に対する理解と協 力の依頼とGW前後の問題行動を防ぐ ため	
			○	5年生	特別活動	学年	・学年集会	・学年経営方針，生活態度，情報モラ ル			・家庭生活に触れながらモラル（情報 モラル）の向上への意識を高めるため	
	5月											
	6月											
	7月		○		情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・夏季休業中の問題行動を防ぐため
			○		情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ ・正しい情報の選択・収集と，情報を 発信するときの責任	e3-1	情報の正確さを判断する方法を知 る	・夏季休業中の問題行動を防ぐため ・調べ学習やまとめた情報の発信に対 して，正しい知識を持ち，正しい情報 の選択・収集ができるようにするため
			○		生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による夏季休業中の生 活指導の講話として
	8月											
	9月											
	10月		○		5年生	総合的な 学習の時 間	クラス	・授業	・インターネットでのコミュニケー ションの注意点 ・インターネットに情報を公開するこ との危険性	d3-1 f3-2	予測される危険の内容がわかり， 避ける 人の安全を脅かす行為を行わない	・インターネットの利用が増え，S N Sなどによるコミュニケーションのト ラブルの予防のため
	11月		○		5年生	社会	クラス	・授業	・「わたしたちの生活と情報」におい て，正確な情報を発信しようとする態 度を育てること，情報は公共のもの であるという視点をもつこと	c3-2 a3-1 i3-1	「ルールや決まりを守る」という ことの社会的意味を知り，尊重す る 他人や社会への影響を考えて行動 する ネットワークは共用のものである という意識を持って使う	
	12月		○		情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・情報モラル教育の中で，守るべきこ とと家庭でのルール設定			・冬季休業中の問題行動を防ぐため
			○		情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ ・携帯電話やスマホのフィルタリング	h3-1	情報の破壊や流出を守る方法を 知る	・冬季休業中の問題行動を防ぐため ・フィルタリングに対する知識を持 ち，トラブルを回避するため
			○		生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による冬季休業中の生 活指導の講話として
	1月											
	2月				5年生	国語	クラス	・授業	・「ニュース番組作りの現場から」 （情報を伝えるときに大切にしてい なければいけないことや配慮すべき こと）	b3-1	情報にも，自他の権利があること を知り，尊重する	
	3月		○		情報教育部 生徒指導部		クラス	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・春季休業中の問題行動を防ぐため
			○		情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・春季休業中の問題行動を防ぐため
		○		生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による春季休業中の生 活指導の講話として	

※網掛けは全校で一斉に実施する内容(保護者対象を除く)

情報モラル年間指導計画例【小学校】

学年	月	対象		担当部署 教科名	授業名 時間	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカ リキュラ ムコード	モデルカリキュラム 中目標	理由・その他	
		児童	保護者									
6 年 生	4月		○	情報教育部	P T A 総 会	全校	・資料配付 ・講話（校長）	・携帯電話やスマホの所持の傾向や、 問題となった事例の紹介と対策 ・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・P T A 総会にて資料配付 ・情報モラル教育に対する理解と協 力の依頼とGW前後の問題行動を防ぐ ため	
			○	6年生	特別活動	学年	・学年集会	・学年経営方針，生活態度，モラル			・家庭生活にふれながらモラル（情報 モラル）の向上への意識を高めるため	
	5月		○		6年生	道徳	クラス	・授業	・ネットいじめについて A（1） 善悪の判断，自律，自由と 責任	a3-1	他人や社会への影響を考えて行動 する	
			○	○	6年生	特別活動	学年	・授業 ・学年日より配付	・出前授業として「ケータイ・スマホ 安全教室」の実施 ・「ケータイ・スマホ安全教室」を受 けて，家庭の協力を依頼			・携帯電話やスマホ等の使用機会が増 える時期で危険性や安全対策について の理解を深める必要があるため ・学校公開日に保護者の参観ができ るように設定し，協力を依頼
	6月		○		6年生	道徳	クラス	・授業	・著作権について A（1） 善悪の判断，自律，自由と 責任 ・メール依存・ネット依存について C（13） 公正，公平，社会正義	c3-1 f3-1	何がルールやマナーに反する行為 かを知り，絶対に行わない 健康を害するような行動を自制す る	
	7月			○	情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・インターネットの危険性についての 注意喚起や家庭でのルール設定			・夏季休業中の問題行動を防ぐため
				○	情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・夏季休業中の問題行動を防ぐため
				○	生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による夏季休業中の生 活指導の講話として
	8月											
	9月											
	10月		○		6年生	総合的な 学習の時間	クラス	・授業	・迷惑メールやチェーンメール	d3-2	不適切な情報であるものを認識 し，対応できる	・迷惑メールやチェーンメール，詐欺 など，不適切な情報に対する対処法を 身に着けるため
	11月											
	12月			○	情報教育部 生徒指導部	保護者会	全校	・資料配付	・情報モラル教育の中で，守るべきこ とと家庭でのルール設定			・冬季休業中の問題行動を防ぐため
				○	情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ ・ネットショッピングや違法ダウン ロード	c3-3	契約行為の意味を知り，勝手な判 断で行わない	・冬季休業中の問題行動を防ぐため ・ネットショッピングやダウンロード に対する正しい知識をもち，適切な判 断ができるようになるため
				○	生徒指導部	全校集会	全校	・講話（生徒指導）	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・生徒指導主任による冬季休業中の生 活指導の講話として
	1月											
2月			○		6年生	総合的な 学習の時間	クラス	・授業	・セキュリティソフトの使用について ・個人情報の管理	g3-1 e3-2	不正使用や不正アクセスされない ように利用できる 自他の個人情報を，第三者にもら さない	・セキュリティに対する知識を持ち， 理解を深めるため ・卒業を前に，個人情報の管理につい て，責任ある態度を養うため
	3月		○	情報教育部 生徒指導部	特別活動	クラス	・資料配付 ・学活	・インターネットの危険性の注意喚起 と家庭でのルールを守ることの大切さ			・携帯電話やスマホ等の利用が増える 時期であるため	

※網掛けは全校で一斉に実施する内容(保護者対象を除く)

情報モラル年間指導計画例【中学校】

学年	月	対象		担当部署 教科名	授業名	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカ リキュラ ムコード	モデルカリキュラム 中目標	備考
		生徒	保護 者								
1 年 生	4月	○		生徒指導部	始業式	全校	・講話（生徒指 導主事） ・資料配付	・携帯電話やスマホの利用につ いての注意喚起 ・学校内での携帯電話やスマホの ルールと指導方針	a4-1	・情報社会における自分の責任 や義務について考え、行動する	
			○	学年	P T A 総会	学年	・講話（学年生 徒指導担当、養 護教諭）	・携帯電話やスマホの所持にあ たっての注意 ・学校内での携帯電話やスマホの ルールと指導方針			・携帯電話やスマホ利用の留意点 について、保護者との共通理解を 図るために行う
	5月	○		技術・家庭	技術	学級	・授業	・偽物（違法）商品	c4-1	・違法な行為とは何かを知り、 違法だとわかった行動は絶対に 行わない	
	6月	○	○	生徒指導部	学活	学年 P T A	・講話（外部機 関） ・資料配付	・情報セキュリティ	h4-1	・基礎的なセキュリティ対策が 立てられる	
	7月		○	情報担当	保護者懇談会	学級	・資料配付	・携帯電話やスマホの利用方法に ついての注意喚起 ・家庭でのルール設定の依頼			・夏季休業中の問題行動を防ぐた めに行う ・懇談会にて保護者向け資料配付
		○		生徒指導部	終業式	全校	・講話（生徒指 導主事） ・資料配付	・携帯電話やスマホの利用につ いての注意喚起	f4-2	・自他の安全面に配慮した、情 報メディアとの関わり方を意識 し、行動できる	
	8月										
	9月	○		学級担任	道徳	学級	・授業	・望ましい生活を送るための携帯 電話やスマホの利用の仕方につ いて考える活動	f4-1	・健康の面に配慮した、情報メ ディアとの関わり方を意識し、 行動できる	
	10月	○		技術・家庭	技術	学級	・授業	・情報通信ネットワークの危険性 ・情報セキュリティ	c4-2	・情報の保護や取り扱いに関す る基本的なルールや法律の内容 を知る	
	11月	○		技術・家庭	技術	学級	・授業	・情報技術の特性	i4-1	・ネットワークの公共性を意識 して行動する	
	12月		○	情報担当	保護者懇談会	学級	・資料配付	・生徒の情報機器利用の現状とト ラブルへの対策			・冬期休業中の問題行動を防ぐた めに行う ・懇談会にて保護者向け資料配付
	1月										
	2月	○		技術・家庭	技術	学級	・授業	・うわさやデマを発信しない	d4-1	・安全性の面から、情報社会の 特性を理解する	
3月											

※ 網掛けは全校で一斉に実施する内容（保護者対象を除く）

情報モラル年間指導計画例【中学校】

学年	月	対象		担当部署 教科名	授業名	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカ リキュラ ムコード	モデルカリキュラム 中目標	備考
		生徒	保護 者								
2 年 生	4月	○		生徒指導部	始業式	全校	・講話（生徒指 導主事） ・資料配付	・携帯電話やスマホの利用につ いての注意喚起 ・学校内での携帯電話やスマホの ルールと指導方針	a4-1	・情報社会における自分の責任 や義務について考え、行動する	
			○	学年	P T A 総会	学年	・講話（学年生 徒指導担当、養 護教諭）	・学校内での携帯電話やスマホの ルールと指導方針 ・トラブル事例の紹介			・携帯電話やスマホ利用の留意点 について、保護者との共通理解を 図るために行う
	5月	○		学級担任	道徳	学級	・授業	・望ましい人間関係を築くための 携帯電話やスマホの利用の仕方につ いて考える活動	f4-2	・自他の安全面に配慮した、情 報メディアとの関わり方を意識 し、行動できる	
	6月	○		技術・家庭	技術	学級	・授業	・情報モラルと著作権	b4-1	・個人の権利（人格権、肖像権 など）を尊重する	
									e4-2	・自他の情報の安全な取り扱い に関して、正しい知識を持って 行動する	
		○	○	生徒指導部	学活	学年 P T A	・講話（外部機 関） ・資料配付	・携帯電話やスマホの適切な利用 のために必要なこと	f4-1	・健康の面に配慮した、情報メ ディアとの関わり方を意識し、 行動できる	
	7月		○	情報担当	保護者懇談会	学級	・資料配付	・インターネットの利用につ いての注意喚起 ・家庭でのルール設定の依頼			・夏季休業中の問題行動を防ぐた めに行う ・懇談会にて保護者向け資料配付
		○		生徒指導部	終業式	全校	・講話（生徒指 導主事） ・資料配付	・携帯電話やスマホの利用につ いての注意喚起	f4-2	・自他の安全面に配慮した、情 報メディアとの関わり方を意識 し、行動できる	
	8月										
	9月										
	10月										
	11月	○		技術・家庭	技術	学級	・授業	・ワンクリック不当請求、架空請 求への対策	d4-2	・トラブルに遭遇したとき、主 体的に解決を図る方法を知る	
									e4-2	・自他の情報の安全な取り扱い に関して、正しい知識を持って 行動する	
	12月		○	情報担当	保護者懇談会	学級	・資料配付	・生徒の情報機器利用の現状とト ラブルへの対策			・冬期休業中の問題行動を防ぐた めに行う ・懇談会にて保護者向け資料配付
	1月										
	2月	○		技術・家庭	技術	学級	・授業	・怪しいw e b サイトに気をつけ る	e4-1	・情報の信頼性を吟味できる	
3月											

※ 網掛けは全校で一斉に実施する内容（保護者対象を除く）

情報モラル年間指導計画例【中学校】

学年	月	対象		担当部署 教科名	授業名	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカ リキュラ ムコード	モデルカリキュラム 中目標	備考
		生徒	保護 者								
3 年 生	4月	○		生徒指導部	始業式	全校	・講話（生徒指 導主事） ・資料配付	・携帯電話やスマホの利用につい での注意喚起 ・学校内での携帯電話やスマホの ルールと指導方針	a4-1	・情報社会における自分の責任 や義務について考え、行動する	
			○	学年	P T A 総会	学年	・講話（学年生 徒指導担当、養 護教諭）	・学校内での携帯電話やスマホの ルールと指導方針 ・情報機器の長時間利用とネット 依存			・携帯電話やスマホ利用の留意点 について、保護者との共通理解を 図るために行う
	5月	○		学級担任	道徳	学級	・授業	・望ましい人間関係を築くための コミュニティサイトの利用の仕方 について考える活動	f4-2	・自他の安全面に配慮した、情 報メディアとの関わり方を意識 し、行動できる	
		○	○	生徒指導部	学活	学年 P T A	・講話（外部機 関） ・資料配付	・SNSなどコミュニティサイ トを利用する際に気をつけること	e4-2	・自他の情報の安全な取り扱い に関して、正しい知識を持って 行動する	
	6月	○		技術・家庭	技術	学級	・授業	・セキュリティソフトやバック アップ	f4-2	・自他の安全面に配慮した、情 報メディアとの関わり方を意識 し、行動できる	
									g4-1	・情報セキュリティの基礎的な 知識を身に付ける	
		○		社会	公民	学級	・授業	・プライバシーの権利 ・インターネットと人権	c4-2	・情報の保護や取り扱いに関す る基本的なルールや法律の内容 を知る	
	7月		○	情報担当	保護者懇談会	学級	・資料配付	・情報セキュリティに関する情報 提供 ・家庭でのルール設定の依頼			・夏季休業中の問題行動を防ぐた めに行う ・懇談会にて保護者向け資料配付
		○		生徒指導部	終業式	全校	・講話（生徒指 導主事） ・資料配付	・携帯電話やスマホの利用につい での注意喚起	f4-2	・自他の安全面に配慮した、情 報メディアとの関わり方を意識 し、行動できる	
	8月										
	9月	○		技術・家庭	技術	学級	・授業	・違法ダウンロードや不正コピー	b4-2	・著作権などの知的財産権を尊 重する	
	10月	○		社会	公民	学級	・授業	・個人情報、肖像権、著作権	b4-1	・個人の権利（人格権、肖像権 など）を尊重する	
	11月	○		社会	公民	学級	・授業	・消費者の権利	c4-3	・契約の基本的な考え方を 知り、それに伴う責任を理解する	
	12月		○	情報担当	保護者懇談会	学級	・資料配付	・生徒の情報機器利用の現状とト ラブルへの対策			・冬期休業中の問題行動を防ぐた めに行う ・懇談会にて保護者向け資料配付
	1月										
2月											
3月											

※ 網掛けは全校で一斉に実施する内容（保護者対象を除く）

情報モラル年間指導計画例【高校】

学年	月	対象		担当部署・ 教科名	授業名	指導単位	指導の形態	指導の内容	モデルカリ キュラム コード	モデルカリキュラム中目標	理由・その他
		生徒	保護者								
	3月	○	○	生徒指導部	説明会	新入生	講話（生徒指導主事）	・家庭でのスマホの利用についてのルール作りの必要性 ・ネット犯罪やネット依存の危険性	a5-1	情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす	・合格者登校日の生徒指導主事の一部として
1 年 生	4月	○		1年	オリエンテーション	学年	講話（生徒指導主事）	・校内でのスマホ使用のルール			・校内でのルールを周知するため
		○		生徒指導部	始業式	全校	講話（生徒指導主事）	・スマホによるトラブル	b5-1	個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する	・始業式で生徒指導主事講話の一部として
	5月		○	生徒指導部	P T A総会	全体	講話（生徒指導主事）	・家庭でのスマホの利用についてのルール作りの必要性 ・ネット犯罪やネット依存の危険性			・保護者のスマホに対する意識を高め、協力を依頼するため
	6月										
	7月	○	○	生徒指導部	保護者会	全体	資料配付	・情報機器に関するトラブルへの対応と対策	h5-1	情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる	・家庭と協力し夏季休業中の問題行動を未然に防止するため
		○		生徒指導部	終業式	全体	講話（生徒指導主事）	・SNSの利用についての注意喚起			・終業式で生徒指導主事講話の一部として
	8月										
	9月	○		1年	L T	学年	講話	・学校祭におけるスマホの扱い方と、プライバシーについて	b5-2	著作権などの知的財産権を理解し、尊重する	・不用意な投稿による個人情報の流布やスマホによるいじめなどの未然防止のため
	10月										
	11月										
	12月	○		生徒指導部	人権講話	全体	講話	・SNSによるトラブルと、人権について	g5-1	情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ、適切な行動ができる	・安全安心なスマホ利用についての知識と理解を深めるため
		○	○	生徒指導部	保護者会	全体	資料配付	・情報機器に関するトラブルへの対応と対策			・家庭と協力し冬季休業中の問題行動を未然に防止するため
	1月										
	2月										
3月	○		公民	公共	クラス	授業	・情報化社会の課題と情報の公開	a5-1	情報社会において、責任ある態度をとり義務を果たす		
	○		生徒指導部	終業式	1・2年生	講話（生徒指導主事）	・SNSの利用についての注意喚起 ・ネットいじめ予防			・春季休業中の問題行動を未然に防止するため	

※ 網掛けは全校で一斉に実施する内容（保護者対象を除く）

情報モラル年間指導計画例【高校】

学年	月	対象		担当部署・ 教科名	授業名	指導単位	指導の形態	指導の内容	モデルカリ キュラム コード	モデルカリキュラム中目標	理由・その他	
		生徒	保護者									
2 年 生	4月	○		生徒指導部	始業式	全校	講話（生徒指導主事）	・スマホによるトラブル	b5-1	個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する	・始業式で生徒指導主事講話の一部として	
		○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・コンピュータ・メディア・情報リテラシーの違い	f5-2	自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる		
		○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・情報モラルの要点	d5-1	個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する		
	5月		○		生徒指導部	P T A総会	全体	講話（生徒指導主事）	・家庭でのスマホ利用についてのルール作りの必要性 ・ネット犯罪やネット依存の危険性			・保護者のスマホに対する意識を高め、協力を依頼するため
		○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・個人情報の取り扱い	b5-1	個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する		
		○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・知的財産権の種類	b5-2	著作権などの知的財産権を理解し、尊重する		
		○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・個人情報保護法	c5-1	情報に関する法律の内容を積極的に理解し、適切に行動する		
		○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・著作権法とクリエイティブコモンズ	c5-2	情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動する		
	6月	○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・メディアリテラシー再考	e5-1	情報の信頼性を吟味し、適切に対応できる		
	7月	○	○	生徒指導部	保護者会	全体	資料配付	・情報機器に関するトラブルへの対応と対策	h5-1	情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる	・家庭と協力し夏季休業中の問題行動を未然に防止するため	
		○		生徒指導部	終業式	全体	講話（生徒指導主事）	・SNSの利用についての注意喚起			・終業式で生徒指導主事講話の一部として	
	8月	○										
	9月	○		2年	L T	学年	講話	・学校祭におけるスマホの扱い方と、プライバシーについて	b5-2	著作権などの知的財産権を理解し、尊重する	・不用意な投稿による個人情報の流布やスマホによるいじめなどの未然防止のため	
	10月											
	11月											
	12月	○		生徒指導部	人権講話	全体	講話	・SNSによるトラブルと、人権について	g5-1	情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ、適切な行動ができる	・安全安心なスマホ利用についての知識と理解を深めるため	
		○	○	生徒指導部	保護者会	全体	資料配付	・情報機器に関するトラブルへの対応と対策			・家庭と協力し冬季休業中の問題行動を未然に防止するため	
		○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・SNSによる情報発信	e5-2	自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる		
	1月	○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・ネットワークと電子メール	i5-1	ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する		
		○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・情報安全への意識	g5-1	情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ、適切な行動ができる		
		○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・情報安全の対策	h5-1	情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる		
2月	○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・情報発信と社会	a5-1	情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす			
3月	○		情報	情報Ⅰ	クラス	授業	・デジタルデトックスのススメ	f5-1	健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる			
	○		生徒指導部	終業式	1・2年生	講話（生徒指導主事）	・SNSの利用についての注意喚起 ・ネットいじめ予防			・春季休業中の問題行動を未然に防止するため		

※ 網掛けは全校で一斉に実施する内容（保護者対象を除く）

情報モラル年間指導計画例【高校】

学年	月	対象		担当部署・ 教科名	授業名	指導単位	指導の形態	指導の内容	モデルカリキュラムコード	モデルカリキュラム中目標	理由・その他
		生徒	保護者								
3 年 生	4月	○		生徒指導部	始業式	全校	講話（生徒指導主事）	・スマホによるトラブル	b5-1	個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する	・始業式で生徒指導主事講話の一部として
	5月		○	生徒指導部	P T A総会	全体	講話（生徒指導主事）	・家庭でのスマホの利用についてのルール作りの必要性 ・ネット犯罪やネット依存の危険性			・保護者のスマホに対する意識を高め、協力を依頼するため
	6月									個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する	
	7月	○	○	生徒指導部	保護者会	全体	資料配付	・情報機器に関するトラブルへの対応と対策	h5-1	情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる	・家庭と協力し夏季休業中の問題行動を未然に防止するため
		○		生徒指導部	終業式	全体	講話（生徒指導主事）	・SNSの利用についての注意喚起			・終業式で生徒指導主事講話の一部として
	8月										
	9月	○		3年	L T	学年	講話	・学校祭におけるスマホの扱い方と、プライバシーについて	b5-2	著作権などの知的財産権を理解し、尊重する	・不用意な投稿による個人情報の流布やスマホによるいじめなどの未然防止のため
	10月										
	11月										
	12月	○		生徒指導部	人権講話	全体	講話	・SNSによるトラブルと、人権について	g5-1	情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ、適切な行動ができる	・安全安心なスマホ利用についての知識と理解を深めるため
		○	○	生徒指導部	保護者会	全体	資料配付	・情報機器に関するトラブルへの対応と対策			・家庭と協力し冬季休業中の問題行動を未然に防止するため
	1月	○									
2月											

※ 網掛けは全校で一斉に実施する内容（保護者対象を除く）

情報モラル年間指導計画例【高等部】

月	対象			担当部署 教科名	授業名 時間	指導 単位	指導の形態	指導の内容	モデルカリ キュラム コード	モデルカリキュラム中目標	理由・その他
	生徒		保 護 者								
	I II III (a)	III (b) IV									
4月			○	部主事	P T A総会 部懇談	全校	・資料配付 ・講話	・携帯電話やスマホの所持の傾向や、問題となった事例の紹介と対策 ・インターネットの危険性についての注意喚起や家庭でのルール設定 ・インターネット上やSNS等での写真や動画データの利用方法についての注意喚起			・PTA総会にて資料配付 ・情報モラル教育に対する理解と協力依頼
	○	○		生徒指導部	集会	全校	・講話	・学校生活、日常生活におけるルール	c1-1 f1-1	生活の中でのルールやマナーを守る 決められた利用の時間や約束を守る	
5月	○			生徒指導部	情報	クラス	・授業 ・アンケート	・家庭での情報機器利用状況の把握	f2-1	健康のために利用時間を決め守る	
	○			生徒指導部	集会	クラス	・講話	・SNSの扱い方についての注意喚起	a2-1 c2-1	相手への影響を考えて行動する 情報の発信や情報をやりとりする場合のルールやマナーを知り、守る	
6月	○	○		生徒指導部	特別活動	クラス	・アンケート	・いじめの兆候や困ったこと、悩みなどの情報をつかむ			・生活アンケート
	○			情報	情報	クラス	・授業	・個人情報、肖像権、著作権について	b4-1 b4-2	個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重する 著作権などの知的財産権を尊重する	
7月	○			情報	情報	クラス	・授業 ・アンケート	・インターネットの危険性についての注意喚起	d2-1 c2-1 e3-2	危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する 情報の発信や情報をやりとりする場合のルールやマナーを知り、守る 自他の個人情報を、第三者にもらさない	・外部講師（eネットキャラバン）
	○			生徒指導部	集会	クラス	・講話	・インターネットの危険性についての注意喚起や家庭でのルール設定	f2-1 c2-1	健康のために利用時間を決め守る 情報の発信や情報をやりとりする場合のルールやマナーを知り、守る	・夏期休業中の生徒指導の講話として
8月											
9月											
10月	○			生徒指導部	集会	クラス	・講話	・SNSの扱い方についての注意喚起	a2-1 c2-1	相手への影響を考えて行動する 情報の発信や情報をやりとりする場合のルールやマナーを知り、守る	
	○	○	○	教育情報部		全校	・資料配付	・家庭で防げるネットトラブル	f2-1 c2-1	健康のために利用時間を決め守る 情報の発信や情報をやりとりする場合のルールやマナーを知り、守る	
11月	○	○		生徒指導	特別活動	クラス	・授業	・学級、学年で人権について話し合いを行う。	a2-1 b1-1	相手への影響を考えて行動する 人の作ったものを大切にすることを	・人権週間の取り組みの一部として
12月	○			生徒指導部	集会	クラス	・講話	・インターネットの危険性についての注意喚起や家庭でのルール設定	f2-1 c2-1	健康のために利用時間を決め守る 情報の発信や情報をやりとりする場合のルールやマナーを知り、守る	・冬期休業中の生徒指導の講話として
1月			○	教育情報部 P T A	研修	全校	・講話 ・グループ ディスカッション ・ワーク シヨップ	・インターネットのトラブルや危険性に対する注意喚起 ・フィルタリング設定 ・家庭でのルール作り ・情報交換			・外部講師（保護者のためのネットモラル塾）
2月											
3月	○			生徒指導部	集会	クラス	・講話	・インターネットの危険性についての注意喚起や家庭でのルール設定	f2-1 c2-1	健康のために利用時間を決め守る 情報の発信や情報をやりとりする場合のルールやマナーを知り、守る	・春期休業中の生徒指導の講話として

※ 網掛けは全校で一斉に実施する内容（保護者対象を除く）

生徒（a）：個人で情報機器を利用して情報発信ができる生徒または今後利用する可能性がある生徒

生徒（b）：個人で情報機器を利用して情報発信をすることが難しい生徒

# 情報モラル教育実践授業報告書 1

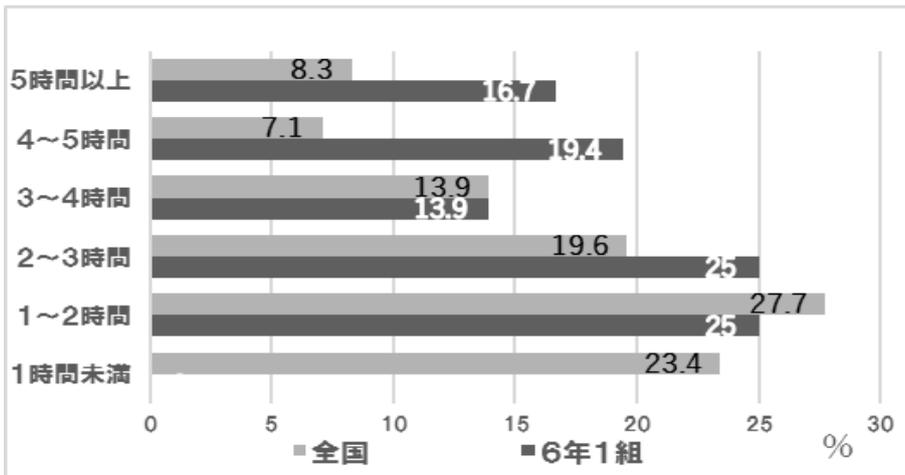
対象学年	小学校 6年生
領域	特別活動
指導項目	インターネットの安全利用

情報モラル指導モデルカリキュラム ( <a href="http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html">http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html</a> )			
指導分野	安全への知恵		
コード	f3-1	指導事項	健康を害するような行動を自制する

授業前の児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日当たり3時間以上利用している児童が50%おり、全国の小学6年生の利用状況29.3%（令和元年度）を大きく上回っている。</li> <li>・利用時間の長さが自分の生活に与える影響について理解していても、それを改善できていない。</li> <li>・規則正しい生活が維持できず、寝不足気味である児童が数名いる。</li> </ul>
児童の心理的成長過程に応じた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットやゲームが与える影響について考えさせるために、脳への影響や、スマホなどの利用時間とテストの正答率との関係に関する資料を提示する。</li> <li>・子どもたちにも認知されているネット・ゲーム依存症やスマホ首などの言葉を取り上げる。</li> </ul>
期待される児童の変容（ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を振り返り、問題点を見つけ、自分に合ったルールを考えることができる。</li> <li>・決めたルールを継続して守ることができる。</li> </ul>
児童の変容を促すための授業の工夫（ポイント）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テストの点数や体育の記録など、日頃から平均を意識した発言をする児童が多いため、全国の利用状況とクラスの結果を見比べさせる。</li> <li>・適切な利用に関する意識を持続させるため、ワークシートを工夫する。</li> </ul>
利用するコンテンツ等（サイトのアドレス）または資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県教育委員会「ネット・ゲーム依存予防対策学習シート」 <a href="https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimu/seitosidou/Informationmorals/gakusyusheet.html">https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimu/seitosidou/Informationmorals/gakusyusheet.html</a></li> </ul>
授業の成果	<p>ゲーム・ネット依存の未然防止については家庭の協力が必要不可欠である。更なる家庭の協力を得るためにも、自分のルールだけでなく、家族みんなで利用について考える機会を設け、家庭のルールを決めるような授業を展開することもできると考える。</p>
授業の課題と改善案	<p>児童の情報モラルの意識をより向上させるために、継続的かつ計画的に指導に取り組みたい。</p>

<事前アンケート>

【平日1日あたりのゲーム・スマホの利用時間】



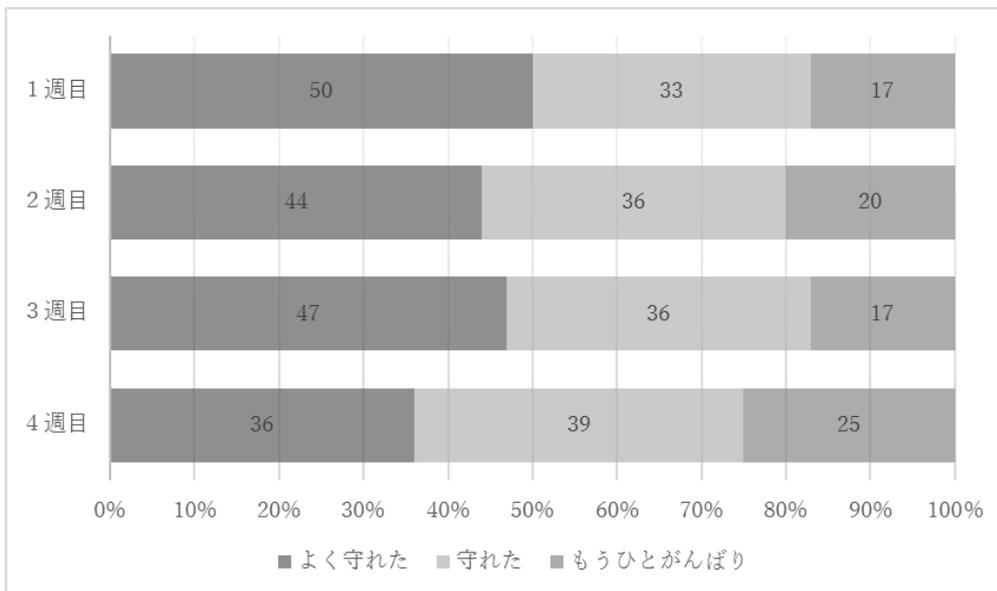
・平日一日に3時間以上利用している児童が半数おり、全国の小学6年生の利用状況と比較しても長い

<児童が授業で考えたルール>

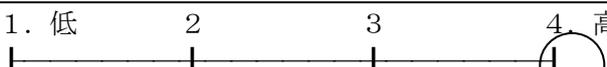
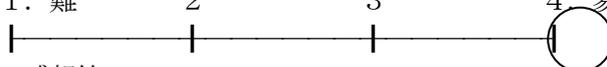
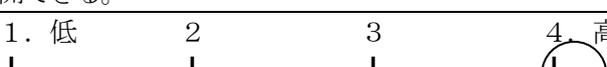
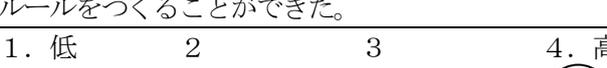
- ・勉強に集中するために、自分の部屋にゲームを置かない (成績が下がるから)
- ・視力が下がらないようにするために、利用時間を30分までにする
- ・睡眠不足を防ぐために、夜9時になったら電源を切る

<事後アンケート>

【ルールを守れているか】



## 情報モラル教育の授業実践評価

児童について	児童の 興味関心の度合い	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 自分たちと全国の6年生の利用状況を比べることで、それぞれの児童の問題意識が明確になり、意欲的に取り組んでいた。
	児童の理解度	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 ネット・ゲームの使い過ぎによる影響を考えたり、資料から読み取ったりすることができていた。
	児童の 変容の度合い	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 日が経っても、「よく守れた」や「守れた」の割合が高かった。
授業について	事前準備の難易度	1. 難                      2                      3                      4. 易  理由・感想等 ワークシートは、自由記述のスペースが確保されていれば十分であり、資料もネット上にあるものを活用すればよい。
	指導者にとっての 授業展開の難易度	1. 難                      2                      3                      4. 易  理由・感想等 児童自身にゲーム・スマホについて経験や知識が多いため、スムーズに授業を展開できる。
	授業の「ねらい」の 達成度	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 それぞれが抱えている利用に関する問題点に対して、「何のために」を意識したルールをつくることができた。
	指導方法の 効果の度合い	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 「もうひとがんばり」の評価をした児童の保護者のサイン欄に「がんばれ」というメッセージが書き込まれ、翌週は「守れた」に改善している児童がいた。
<授業の成果> クラスと全国の利用状況を比べることで、それぞれの児童の問題意識が明確になり、自分に合ったルールをつくることができた。また、定期的にルールが守れているかを振り返らせることで、適切な利用に関する意識を一定期間持続させることができた。		

## 情報モラル教育の授業実践例

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント
導 入	12 分	<p>1 ネットやゲームなどの利用状況について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前アンケートとクラスの集計結果、全国の状況を見比べて気付いたことを発表しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国の6年生よりも利用時間が長い。</li> <li>・ ゲームや動画視聴の利用が多い。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前にアンケートに取り組みしておく。</li> <li>○ 利用状況を客観的に振り返るためにクラスと全国のデータを提示する。</li> <li>○ 利用時間が増えたことによって睡眠時間や家族で過ごす時間が減っていることに気付かせる。</li> </ul>
展 開	28 分	<p>2 ネットやゲームが与える影響を考える。</p> <p>(1) ネットやゲームが与える影響について考え発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ネットやゲームの利用時間が長いことは、あなたにどんな影響を与えるでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 睡眠不足になる。</li> <li>・ ケンカなどのトラブルが起こる。</li> <li>・ 家族との時間が減る。</li> </ul> </li> <li>(2) 資料から、ネットやゲームの使い過ぎによる影響について知る。</li> <li>○ 資料から、どんな影響を与えることが分かるでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視力や体力が低下する。</li> <li>・ 食事や睡眠が不規則になる。</li> <li>・ 利用時間が増えると、テストなどの正答率が下がる。</li> </ul> </li> </ul> <p>3 ネットやゲームの利用について考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ネットやゲームを利用するときに気を付けることを考えましょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長時間利用しないようにする。</li> <li>・ 夜遅くまで利用しないようにする。</li> <li>・ 使う場所を決めておく。</li> </ul> </li> </ul> <p>4 今後の利用について考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 今後の利用について考え、ルールを決めましょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族で過ごす時間を大切にするために利用時間を1日1時間にする。</li> <li>・ 利用時間を短くするためにスマホはリビングで使う。</li> <li>・ 利用しすぎないために保護者にフィルタリングを設定してもらう。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートに書かせてから発表させる。</li> <li>○ 脳への影響や、スマホ等の利用時間と正答率との関係に関する資料をテレビに映す。</li> <li>○ ゲーム依存症についての説明や図、グラフを提示、ネットやゲームの与える影響について気付かせる。</li> <li>○ ワークシートに書かせ、発表させる。</li> <li>○ 友達の見解でよいと思ったものを書き足させる。</li> <li>○ ワークシートに書かせ、発表させる。</li> <li>○ 何のためにそのルールを設定するのかという目的を大切にさせる。</li> </ul>
ま と め	5 分	<p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日決めたルールを守り、ネットやゲームと付き合いましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ネットやゲームとの付き合い方を見直し、自分で決めたルールを守っていくことを確認する。</li> </ul>

## 情報モラル教育を広げるための方策と課題

情報モラル教育を広げるための実践	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業実践の様子を他の先生方に御参観いただき、協議会を行った。</li><li>・授業実践の様子をホームページに掲載した。</li><li>・6年生の学年だよりや、生徒指導担当から長期休業前に児童に配付する「生活のきまり」に、スマホ・タブレット等の利用についての注意を促す文面を載せた。</li></ul>
情報モラル教育を広げるための課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・御参観いただいたり、協議会を行ったりするだけでなく、その先生方にも実践していただくことが必要。</li><li>・保護者の意識も高めるために、学校公開日等で取り扱うとよい。</li><li>・ゲームやスマホの利用が低年齢化していることもあり、どの学年でも取り上げ、継続的に取り組むことが大切。</li></ul>

## 情報モラル教育実践授業報告書 2

対象学年	中学校3年生
領域	道徳
指導項目	C- (14) 家族愛, 家庭生活の充実
実践のねらい	情報機器の望ましい利用の仕方について自分の生活を見直し, 適切に扱おうとする態度を育てる。

情報モラル指導モデルカリキュラム ( <a href="http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html">http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html</a> )			
指導分野	安全への知恵		
コード	f4-2	指導事項	自他の安全面に配慮した, 情報メディアとの関わり方を意識し, 行動できる。

授業前の生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラルに関するルールやマナーについて学んでおり, 改めて適切な情報機器の扱い方について考えさせたい時期。</li> </ul>
生徒の心理的成長過程に応じた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生の時期は, 家族の愛情をうっとうしく感じたり, 干渉を嫌って反抗的になったりすることがある。その中で, 中学3年生の頃には, 家族の言動の一つ一つから愛情を感じとることができるようになってくる。</li> <li>本実践では, グループでの話し合い活動を行い, さまざまな見方や考え方を知り, 家族との約束事について多面的・多角的に考えることで, そこに込められた家族の愛情について考えさせる。</li> </ul>
期待される生徒の変容(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器の望ましい利用の仕方について, 自分の生活を見直し, 家族の思いを大切にしながら, 適切な言動をしようとする。</li> </ul>
生徒の変容を促すための授業の工夫(ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラルに関わる題材を扱いながら, 情報機器の望ましい利用の仕方について自分の生活を見直し, 適切に扱おうとする道徳的心情を育む。</li> <li>家族との約束の意義を考え, 親の愛情を大切にしようとする生徒の生活実践につなげる。</li> </ul>
利用するコンテンツ等(サイトのアドレス)または資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「母から子への iPhone18 の約束」 (Kindle 版) 子どもたちを危険なネット環境から守る会 (ゴマブックス)</li> </ul>
授業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や友人との関わりを大切にするためにも, 情報機器を適切に扱おうとする生徒の姿勢を育てることができた。</li> <li>自己の振り返りにおいて, 情報機器の望ましい利用の仕方について自分の生活を見直し, 家族との約束事の大切さに触れながら, 今後の目指す姿を述べる生徒が多かった。</li> </ul>

<p>授業の課題と改善案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で、各家庭でのスマートフォンに関する約束事についてのアンケートを行った。</li> <li>・自分のスマートフォンを持っていない生徒にとっては、考えにくい様子だったので、誰にでも答えられる形で、「スマートフォンを扱うときに、どんな家族との約束事があるとよいだろうか」という問いかけができるとういと感じた。</li> </ul>
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 生徒の感想

- ・親などからの期待を裏切らないように、うまく情報機器を活用して成長できるようになりたい。
- ・スマートフォンが人生の全てとは思わず、画面の外に広がる世界にも目を向けて、友達との会話も大切にしたい。
- ・自分の将来を考えて責任をもって使用することやスマホにしばられることなく自分なりの規則をもっていくことを心掛けていくとういと思った。
- ・親と決めたルールや友人との関係を悪くするようなことがないように気をつけて使っていきたいと改めて思った。
- ・スマホなどの電子機器の影響で、ふだんの生活がくずれるのが一番いけないことだと思うので、自分の生活そのものを変えてしまわないように心掛けるとよいと思う。
- ・自分だけでなく、親や友達など周りの人の気持ちを考えて、送るメッセージを考えたいと思う。
- ・スマホは自分の人生の全てではないので、スマホばかりにとられるのではなく、自分をしっかりとをもって、体験を大切にしながら成長していきたい。
- ・「18の約束」を読み、母親からの愛がひしひしと伝わる約束事だと思った。私の家では特にスマホについての約束事は無いですが、スマホに頼りすぎず、自分の視野や感性を広げていく物として使用していきたい。
- ・自分のことを考えてくれている家族に感謝しながら、情報機器を扱おうと思った。
- ・家庭の約束事は、親の愛情でもあるということが分かったので、きちんと守ろうと思う。
- ・スマホの中でしか言えないことをSNSやメールで送ることで傷つく人がいるから気を付けたい。
- ・親との約束はもちろん、自分が上手にスマホを使うために自分でもルールを決めて、扱うとういと思った。
- ・スマホを使うときのルールには親の愛情が込められていることを知り、ルールを守ろうと改めて思った。
- ・スマホから学ぶことはたくさんあるけど、スマホにとられないようにしたい。
- ・他人に迷惑をかけないようにスマホの使い方を考え、親が何のためにスマホを買ってくれたのかを考えて使いたいと思った。
- ・スマホばかりではなく、きちんと家族と話すことを大切にしていきたい。
- ・スマホを使うことでよい方向に自分自身が成長できるように使いたい。
- ・自分の親の分の責任も背負っていることを忘れずにスマホを使うとういと思う。
- ・スマホにとられるのではなく、周りとの人間関係、コミュニケーション、経験を大切にしたいと思った。

## 情報モラル教育の授業実践評価

生徒について	生徒の 興味関心の度合い	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">(1)</p> <p>理由・感想等 実生活に結び付いたスマートフォンの扱い方について具体的な事例を扱っている資料で中学生の関心が高い内容である。</p>
	生徒の理解度	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">(1)</p> <p>理由・感想等 発問に対する生徒の意見は、本時のねらいとする道徳的価値にせまっているものが多く、内容理解も深まり、活発な意見交換がされた。</p>
	生徒の 変容の度合い	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">(1)</p> <p>理由・感想等 自己の振り返りでは、情報機器の望ましい利用の仕方について自分の生活を見直し、家族との約束事の大切さに触れながら、今後の目指す姿を述べる生徒が多かった。</p>
授業について	事前準備の難易度	<p style="text-align: center;">1. 難                      2                      3                      4. 易</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">(3)</p> <p>理由・感想等 本実践では、ワークシートとプレゼンテーションを使用した。価値への方向付けが大切になる授業なので、丁寧な準備をすることで学習活動が活発になる。</p>
	指導者にとっての 授業展開の難易度	<p style="text-align: center;">1. 難                      2                      3                      4. 易</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">(1)</p> <p>理由・感想等 発問に対する生徒の意見が多様であるほど、価値の追求に深まりが見られる教材で、指導者の意図する授業展開に運びやすい。</p>
	授業の「ねらい」の 達成度	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">(1)</p> <p>理由・感想等 家族との約束の意義やそこに込められた親の愛情について深く考えつつ、情報機器の望ましい利用の仕方について考えさせることができる。</p>
	指導方法の 効果の度合い	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">(1)</p> <p>理由・感想等 本実践では資料のさまざまな部分に込められている親の愛情について考える場面でグループでの話し合いを行うことで、適切な情報機器の扱い方について多面的・多角的に捉えさせることができた。</p>
<p>&lt;実践の感想及び反省点等&gt;</p> <p>生徒自身の家庭生活と資料の内容とを比較しながら考えられる授業となり、理解が得られやすかった。道徳的心情を育みつつ、情報モラルに関する判断力を付けさせることができた。情報モラルに関するさまざまなルールやマナーについて学んでいる中学2・3年生の授業として実施するとよいと感じた。</p>		



展開		<p>母親は、どのような思いで iPhone18 の約束を渡したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会に出たときに、恥ずかしくないように成長してほしい。</li> <li>・ 子どもをネット社会から守りたい。</li> <li>・ スマートフォンに支配されるような人になってほしくない。</li> <li>・ 責任をもって、自分の物が使える子になってほしい。</li> <li>・ 将来、大人になったときにもルールを守れるように、子どもの内からルールを守らせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子の安全や健康を願う母親の思いに気付かせる。</li> </ul>
	8分	<p>5 自分の生活を振り返り、自己を見つめる。</p> <p>スマートフォンや情報機器を扱うときに、どのようなことを心掛けて使うとよいと思うか、書きましょう。</p> <p>● 授業を通して考えたことや、これからの自分について考えたことなどを書きましょう。</p> <p>私はこの「18の約束」を親から、母親からの愛が込められた約束だと感じました。私の家では特にスマホについての約束は無いですが、確かに私もスマホ依存になりつつあると感じました。これからは、スマホに頼りすぎず、あくまで自分の視野や感想を広げてくれるものとして活用していきたいです。</p> <p>6 教師の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座席配置を戻して、道徳振り返りカードを配付する。</li> <li>・ iPhone18 の約束の後に書かれていたメッセージを紹介し、母親の思いを確認する。</li> <li>・ 学級の生徒に、情報機器の望ましい利用の仕方を考えながら生活してほしいことを伝える。</li> </ul>
まとめ			

## 情報モラル教育を広げるための方策と課題

情報モラル教育を広げるための実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月に外部講師を招き、スマホ・ケータイ安全教室を行った。電子黒板を用いて、全教室に双方向の配信をし、全校への広がりを図った。</li> <li>・ 本道徳実践を、校内の公開授業とし、他の教師にモデル授業として参観してもらった。また、本道徳実践を参考にして、各担任がアレンジを加えて、同様の実践を行った。</li> </ul>	
情報モラル教育を広げるための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭生活においても学校生活においても情報機器が急速に普及しているため、保護者と教師の情報共有をし、早い段階で生徒の状況をとらえて、指導に生かせる体制づくりが必要だと考える。</li> </ul>	

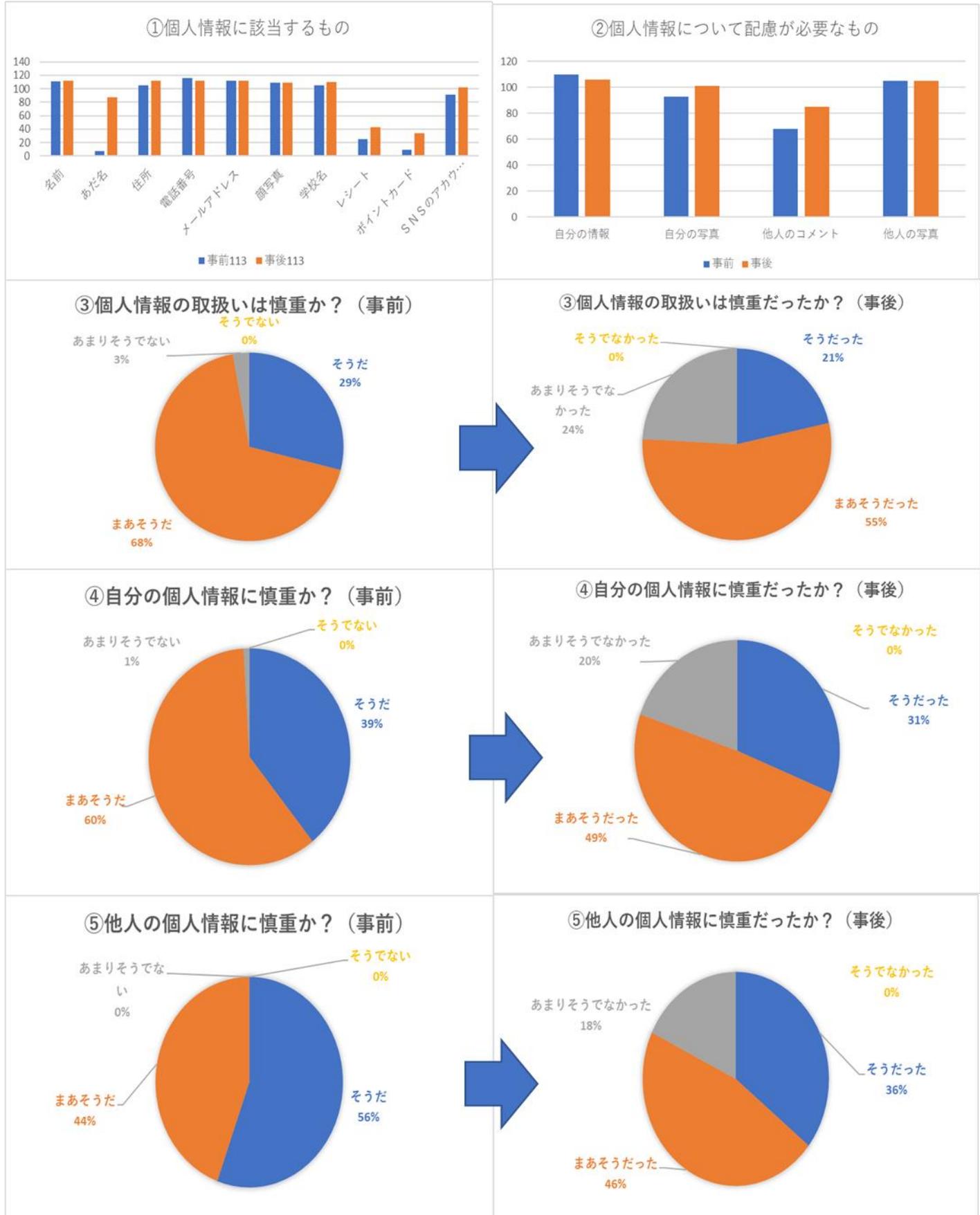
## 情報モラル教育実践授業報告書 3

対象学年	高校2年生
領域	教科指導（英語科）
指導項目	個人情報について考える

情報モラル指導モデルカリキュラム ( <a href="http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html">http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html</a> )			
指導分野	情報セキュリティ		
コード	c5-2	指導事項	情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動する

授業前の生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの生徒がスマートフォンを所持し、SNSなどを利用している。</li> <li>安易な投稿で他人を傷付けたり、感情的になった書き込みをしたりして、思いもよらない人間関係トラブルに陥る場合もある。</li> <li>SNSへの投稿で大きな問題に発展する場合がある。</li> </ul>
生徒の心理的成長過程に応じた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府など公的機関が発信しているアプリの個人情報に関する信頼度について考える機会を与え、それと比べて自身の投稿内容が適切であるかどうかを改めて考えさせる。</li> </ul>
期待される生徒の変容（実践のねらい）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の投稿する内容が適切であるかを考え、思いもよらない被害に遭わないよう、あらかじめ注意を払って投稿する意識をもつ。</li> </ul>
生徒の変容を促すための授業の工夫（ポイント）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分は大丈夫」という先入観を排除するため身近な話題を取り上げ、自分のSNSに対する態度と比較できるようにした。</li> <li>それぞれの事案についてペアワークで話し合うことで、自分とは違う意見や考え方に触れ、自らの考え方の評価と改善を促すようにした。</li> </ul>
利用するコンテンツ等（サイトのアドレス）または資料等	資料1 Ministry of Health, Labour and Welfare COVID-19 Contact-Confirming Application (Abbreviation:COCOA)
授業の成果	事後アンケートで個人情報の取扱いの意識に大きな変容が見られている。今回感じたことは、生徒自身が何をもって「個人情報に慎重である」としているかが曖昧で、具体例や危険性を示すことで生徒自身が自分の考えが甘かった、と認識できたようである。
授業の課題と改善案	適切な素材さえあれば準備の大変さもそれほどないが、素材が見つからない場合は既存の教材で代用することができる。ただし、その場合は生徒にとって授業での架空の話になりがちで、現実感が伴わない可能性がある。授業を展開する上で、現実に関わった出来事に関連付けることで生徒の理解を深め、より現実を感じさせる工夫が必要だと思う。

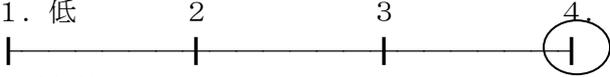
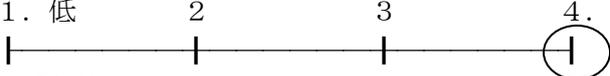
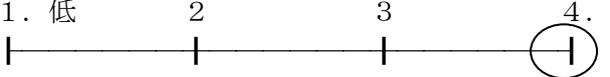
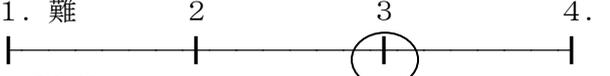
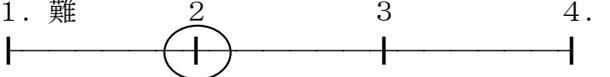
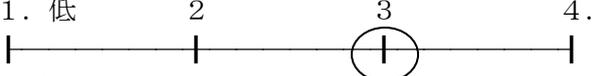
アンケート結果



#### 事後アンケートより（一部抜粋）

- ・自分だけでなくクラスメイトの情報を他人に渡してしまわないように注意する必要があることに気いた
- ・学校、クラス名とニックネームで犯罪に巻き込まれる可能性があるのが怖いと思った。
- ・インスタやTwitterのリア垢にはみんなよく学校名とかを書いてるので気をつけた方がいいと思った。
- ・最初は自分は個人情報を晒してないから大丈夫だと思っていたけど、ちゃんと振り返ってみたら完全に安全とは言えないな思った。
- ・組み合わせによって、一つ一つの情報が少なくとも個人が特定されるのは怖いなと思いました。
- ・SNSのアカウントは全て鍵をかけているがそれでも個人情報の漏洩が怖いなと思った。
- ・自分のSNSにも学校名を書いたり顔写真を載せたりしているから怖いと感じた。これから気をつけてSNSを使おうと思った。
- ・意外と自分は個人情報について緩い方なんだなと実感した。
- ・Instagramはみんな利用しているけど怖いなと思った、特に制服。
- ・日本政府のアプリといっても、必ずしも安全とは限らないし、どこからでも情報が抜き取られそうと思うとやはりアプリを入れるのは躊躇うなって思いました。写真を上げるときは気をつけようと思います。
- ・スマートフォンが普及して簡単に個人情報が特定できるようになった今の時代は以前よりもメディアリテラシーが問われるなと感じた。
- ・今は運がいいことに何事にも巻き込まれていないが、インスタなどで顔出しをしているため悪い人に騙されても自業自得になってしまうな、と感じた。
- ・今まで何でも投稿して共有しようとしてたけど、今後気をつけないといけないなと思った。
- ・何でもないツイートや投稿でも個人情報がバレてしまうことはすごく怖いなと思いました。政府が作ったアプリはあまり信用できない感じがするので入れるのは少し躊躇します。
- ・自分は出来ていると思ったけれどグレーなところがあって今一度考え直すいい機会になった。
- ・今日ココアのアプリ入れたいと思います。
- ・自分の個人情報についてもっと慎重に考えるべきだと今回改めて理解しました。
- ・今の私のインスタアカウントだと簡単に特定されそうだなと思って気をつけようと思った。
- ・インスタのプロフィールのところにクラスを書いたりしていたので、それは危険で意識が低いと感じた。知らない人とかフォローする時は注意したい。
- ・あまり個人情報に配慮してSNSを使えていなかったなと思った。これからはもっと気をつけたい。
- ・学校名とか制服とかをSNSにあげるのは危険だと思う。
- ・SNSに投稿をするときはその中に個人情報が含まれていないかを考えてなければならないと改めて思いました。
- ・周りが個人情報に対して甘い認識ばかりで呆れた。こういう人達から個人情報は漏れていくんだと思う。
- ・色んな個人情報が合わさるとトラブルに巻き込まれるのは怖いと思った。簡単にアップすることは出来ても消すことは難しいので簡単にあげないようにしようと思った。
- ・どんなにささいなことでも個人が特定につながるおそれがあるからSNSを利用するときには厳重に注意することが大切だと改めて理解しました。このような授業は今後の人生にとっても役立つのでまた実施してほしいです。
- ・SNSをしていて、自分は気をつけているつもりでも所々に個人情報となるものが流出してしまっている気がして怖くなった。もっと気をつけたい。

## 情報モラル教育の授業実践評価

生徒について	生徒の 興味・関心の度合い	1. 低                      2                      3                      4. 高 	理由・感想等 事例に対して、グループで活発な話し合いをすることができた。
	生徒の理解度	1. 低                      2                      3                      4. 高 	理由・感想等 トラブルの可能性や、予期していなかった問題が起こる可能性について考えることができた。
	生徒の 変容の度合い	1. 低                      2                      3                      4. 高 	理由・感想等 アンケート内容を見ると、自分自身の行動を振り返って反省するコメントが多く見られた。
授業について	事前準備の難易度	1. 難                      2                      3                      4. 易 	理由・感想等 授業のポイントの絞り込み方の工夫が必要であったが、それ以外では比較的容易であった。
	指導者にとっての 授業展開の難易度	1. 難                      2                      3                      4. 易 	理由・感想等 予想できない発言や感覚の違いを目の当たりにし、戸惑う場面があった。生徒の意識を高めるために適切な事例を準備して説明する必要がある。
	授業の「ねらい」の 達成度	1. 低                      2                      3                      4. 高 	理由・感想等 アンケートの結果より、おおむね生徒の意識を高めることができた。
	指導方法の 効果の度合い	1. 低                      2                      3                      4. 高 	理由・感想等 必要に応じてグループワークで考えさせた結果、さまざまな意見に触れ各自の考えを深めさせることができた。

### <実践の感想及び反省点等>

身近な話題だったので生徒にとっても分かりやすい内容だったようである。アンケートの結果から、今回の実践を通して自己認識の甘さを感じた生徒が多かったことが分かる。これからも、生徒にとって分かりやすい内容や身近な話題を取り上げることが大切だと改めて感じた。

## 情報モラル教育の授業実践例

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント
導 入	10 分	1 事前アンケートに個別に答える 2 厚生労働省が開発した「COCOA」について何を知っているか、ペアで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアが二人とも知らない場合はヒントを出し、話の糸口を与える。</li> </ul>
展 開	30 分	3 ワークシート1を配付し、COCOAが何の略なのかを考えさせる  4 authentic material として資料1を配付し、これをもとにワークシートの問題に答える。  5 COCOAの実情（現時点での登録数など）を提示。生徒自身がアプリをインストールするかどうかを考え、ペアワークで話し合う。  6 アプリをインストールしない人の理由に、「個人情報の流出」が挙げられていることを提示し、個人情報について意見交換をさせる。  7 自分自身のSNSへの投稿で、個人情報について改善すべき点がないかを考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・COCOAに興味をもたせる</li> <li>・学習者向けに修正が加えられていない資料を英語の教材として使用。</li> <li>・インストールしない場合、なぜそういう判断になるのか理由を挙げさせる。</li> <li>・どういった場合に個人情報が流出してしまうのか、生徒の発言を基に話題を広げる。</li> </ul>
ま と め	10 分	8 個人情報に関する意見交換をし、自分のこれまでのSNSに対する態度や投稿内容が適切であったかをグループで共有し、グループごとに発表させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事案に話が及んだ場合は、「その時どうしたらよかったか」を考えさせる。</li> </ul>

《情報モジュール X English》

COVID-19 is still spreading all over the world. Whatever we do, we have to be careful.  
By the way...



Have you ever heard about "COCOA" app?  
COCOA stands for... (CO )-(CO )-(A )

【Read the article and answer the questions!】

Q1 What is a contact-confirming application?

Q2 What are the benefits of using the app?

Q3 Is it possible that personal information may be collected?

Q4 Is there criteria for detecting contact with other users?

Q5 What kind of notifications will I receive with the app?

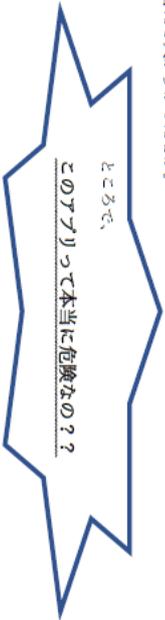


《情報モジュール X English》

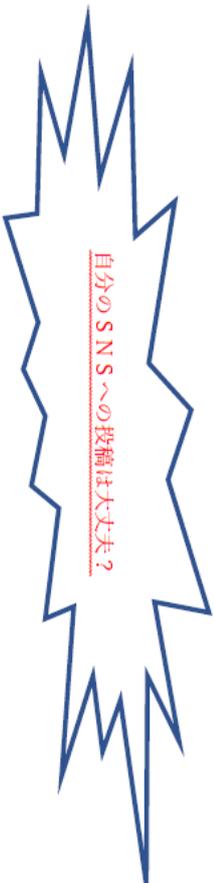
ある調査によると接触確認アプリ (COCOA) のインストール率は  
インストールした : 9.25%  
インストールしていない : 88.35%  
インストールしたが、アプリインストールした : 2.4%

Q6 Will you install the app? Why?

ところで、アプリをインストールしない理由を尋ねると  
「個人情報や行動履歴の流出が怖い」  
「国やスマホのプラットフォームに個人情報を握られる」  
と答える人が多かったとか。



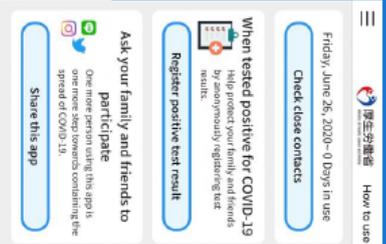
(your opinion)



(your opinion)

Request to install the COVID-19 Contact-Confirming Application

**Install the contact-confirming application to protect yourself, your loved ones, your community and society as a whole.**



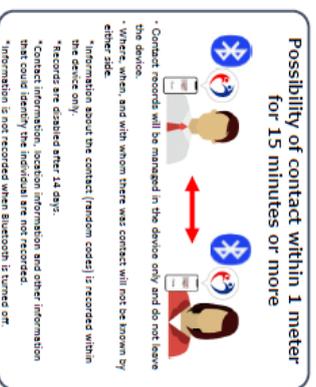
\*screen image

## Ministry of Health, Labour and Welfare COVID-19 Contact-Confirming Application (Abbreviation: COCOA)

The contact-confirming application is a smartphone app that enables you to receive notifications about the possibility of contact with someone infected with the novel coronavirus.

○This app uses the short-range communication function (Bluetooth) on smartphones upon user approval to receive notifications about the possibility of contact with a person who has tested positive for the novel coronavirus, while ensuring anonymity for your privacy.

○Users can receive support, such as testing from a public health center, sooner, by knowing that they might have been in contact with someone who has tested positive. The more users, the more effective it will be in preventing the spread of infection.



Cabinet Secretariat  
Office for Novel Coronavirus Disease Control  
National Strategy Office of Information and Communication Technology

COVID-19 Contact-Confirming Application: Q&A for users

### Q1 What is a contact-confirming application?

It is an application using the short-range communication function (Bluetooth) on smartphones, upon user approval, to receive notifications about the possibility of contact with a person who has tested positive for the novel coronavirus, while ensuring anonymity for privacy. This app has been developed based on application programming interfaces (APIs) offered by Apple and Google.

### Q2 What are the benefits of using the app?

Users can receive support, such as testing from a public health center, sooner, by knowing they might have been in contact with someone who has tested positive. The more users, the more effective it will be in preventing the spread of infection.

### Q3 How is contact with other users recorded?

The short-range communication function (Bluetooth) on smartphones is used to detect proximity to other smartphones (within approximately 1 meter for 15 minutes or more) as contact. Information on close contact is encrypted and recorded only in the user's smartphone, and is automatically disabled after 14 days. The record does not leave the device and the user can delete the record at will any time by deleting the app.

### Q4 Is it possible that personal information may be collected?

You are not asked to enter your name, phone number, e-mail address or other information that could identify you. Information on close contact with other smartphones is encrypted and recorded only in your smartphone, and is automatically disabled after 14 days. Administrative agencies or third parties will not use or collect contact records or personal information.

### Q5 Is location information used?

Location information such as GPS is neither used nor recorded.

### Q6 Is there criteria for detecting contact with other users?

When the smartphone you are using is close to someone else's, within approximately 1 meter for 15 minutes or more, it is highly likely to be detected as close contact. Depending on conditions such as the performance of your device, the surrounding environment (glass windows, thin walls, etc.), or the direction in which the device is held, distance and time might be measured differently. Accuracy is not guaranteed.

### Q7 Can I stop using it at any time?

You can stop using the app at will any time. All records from the last 14 days can be removed by deleting the app.

### Q8 What kind of notifications will I receive with the app?

When a person who has tested positive for the novel coronavirus, upon agreement, registers that he/she tested positive, you will be notified if there is a possibility that you were in close contact—within approximately 1 meter for 15 minutes or more—with that person in the last 14 days. Once you receive the notice, if you select your own condition, contact information for the Outpatient Services for Returnees and Contact Persons, etc. will appear, providing guidance for care such as testing.

### Q9 Will I receive a notification immediately when a person who has tested positive for the novel coronavirus registers on the app?

Notifications to users are sent about once a day. Depending on when the app registered the contact, you may not receive a notification immediately. By selecting "Turn notifications ON" in the app's settings, a notification message will appear on the screen if and when one arrives.

### Q10 What happens if I do not register on the app despite testing positive for the novel coronavirus?

If you test positive, registration on the app is voluntary, based on the user's consent. By registering, people who may have been in contact with you can receive support, such as testing from a public health center, sooner.

### Q11 What should I do if I receive a notification that I may have been in contact with a person who tested positive?

Follow the instructions displayed on the app screen and select your condition. Contact information for the Outpatient Services for Returnees and Contact Persons, etc. will appear, and guidance for care such as testing will be provided.

### Q12 What will the Ministry of Health, Labour and Welfare use the information obtained from the app for?

The Ministry of Health, Labour and Welfare will not use or collect user data from the app. We also do not ask users to enter their name, phone number or other personal information.

## 情報モラル教育実践授業報告書 4

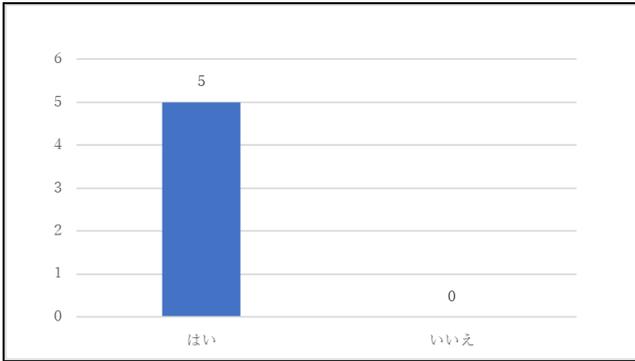
対象学年	高等部 1・2・3年生（教育課程Ⅰ）
領域	社会と情報
指導項目	問題発見・解決，情報モラル
実践のねらい	ネット依存，ゲーム依存について生徒主体の対話を通して深め，対応策を考える

情報モラル指導モデルカリキュラム ( <a href="http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html">http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html</a> )			
指導分野	安全への知恵		
コード	f 2-1 f 3-1 f 4-1 f 5-1	指導事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康のために利用時間を決め，守る。</li> <li>・健康を害するような行動を自制する。</li> <li>・健康の面に配慮した，情報メディアとの関わり方を意識し，行動できる。</li> <li>・健康の面に配慮した，情報メディアとの関わり方を意識し，行動できる。</li> </ul>

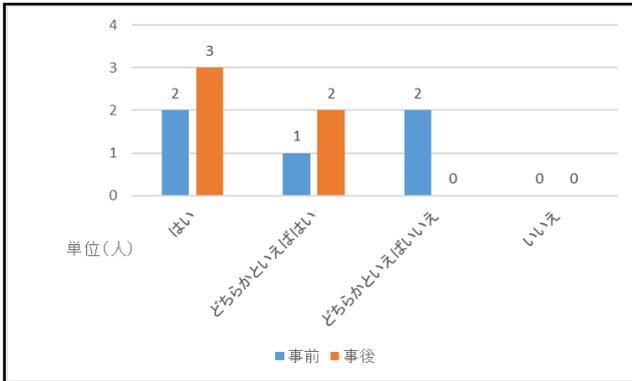
授業前の生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット依存はよくないと思いつつも，長時間行ってしまう。</li> <li>・外出したり，学校外で友達と遊んだりする機会が少ない生徒が多いため，家でゲームやインターネット，動画視聴などに多くの時間を費やしている傾向がある。</li> </ul>
生徒の心理的成長過程に応じた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒目線で問題点を探り，話し合っ解決策を導き出す。</li> <li>・疑問点を述べる過程で生徒の心理的成長過程を探ることができる。</li> </ul>
期待される生徒の変容（ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な話し合いから自分たちの問題として捉える。</li> <li>・他者の意見を聞き，考えを広げる。</li> <li>・自分たちに合った対策を考えることができる。</li> </ul>
生徒の変容を促すための授業の工夫（ポイント）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を整え，生徒同士話し合い，協議しやすい環境をつくった。</li> <li>・主体的に話し合いや記録ができ，話し合いの過程が分かるようにタブレット端末と大型テレビを活用した。</li> <li>・対策や課題について講義するのではなく，自分たちで発見できるように教材の提示方法を工夫した。</li> <li>・生徒から出た意見を見守る。</li> </ul>
利用するコンテンツ等（サイトのアドレス）または資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問作り（QFT）（金城学院大学長谷川元洋教授の授業実践を参考）</li> <li>・事前事後アンケート（金城学院大学長谷川元洋教授の授業実践を参考）</li> <li>・動画教材等授業資料（東京書籍 情報社会のモラル&amp;リテラシー） <a href="http://taiken.tokyo-shoseki.co.jp/taiken/jml/index.html">http://taiken.tokyo-shoseki.co.jp/taiken/jml/index.html</a></li> <li>・ネット依存スクリーニングテスト <a href="https://kurihama.hosp.go.jp/hospital/screening/iat.html">https://kurihama.hosp.go.jp/hospital/screening/iat.html</a></li> </ul>

事前・事後アンケート

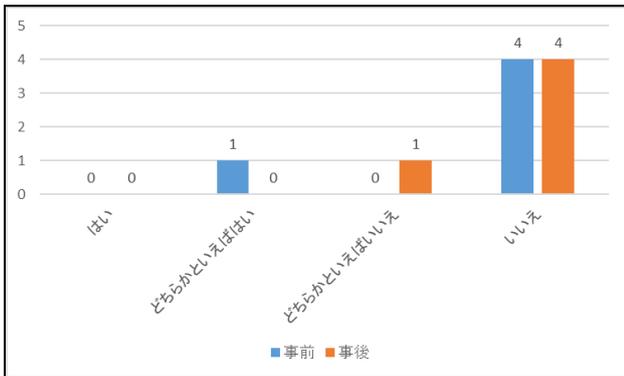
3DSやSwitch（スイッチ）,PS Vita,プレイステーションなどのゲーム機でネットゲームをしている。または、したことがある。



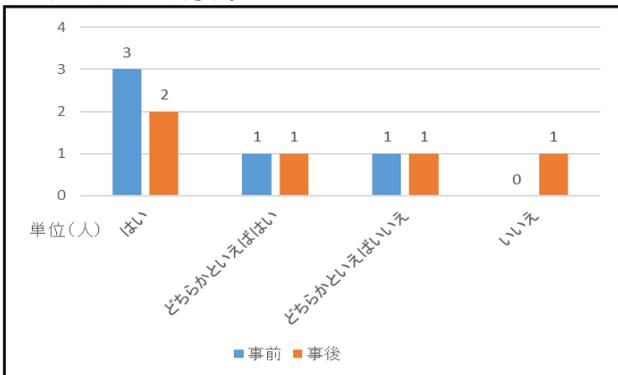
インターネットやゲームを使い始めると止められなくなるから、一定時間使うと使えなくなる仕組みを使うようにするとよいと思う。



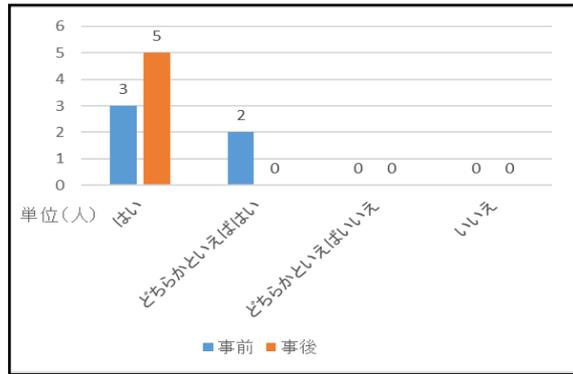
インターネットやゲームを使いすぎではいけないと思っているが、なかなか止められず、長時間使ってしまうことは良いことだと思う。



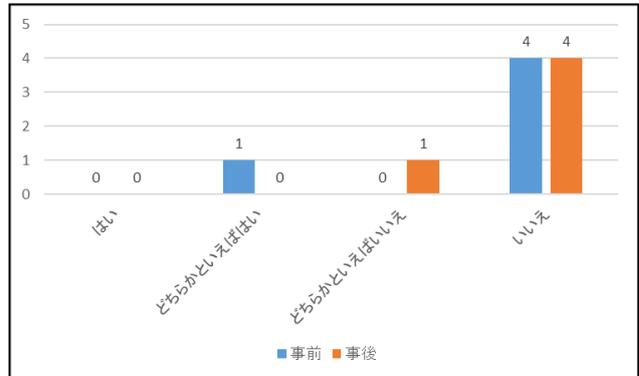
インターネットやゲームをしはじめるとやめられなくなるから、時間が来たら、相手からやめてもらうようお願いしておくとうよいと思う。



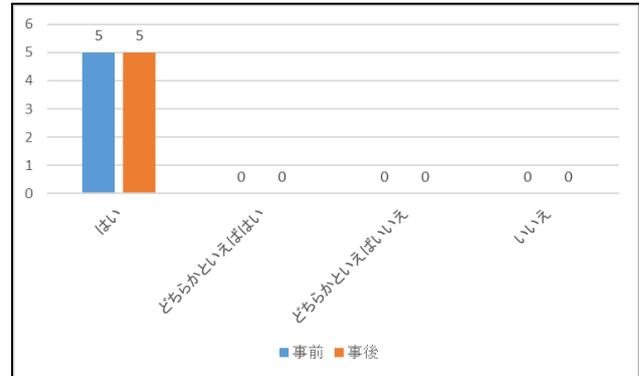
インターネットやゲームを使う時間を自分で決めて、自分でそれを守るようにするとよいと思う。



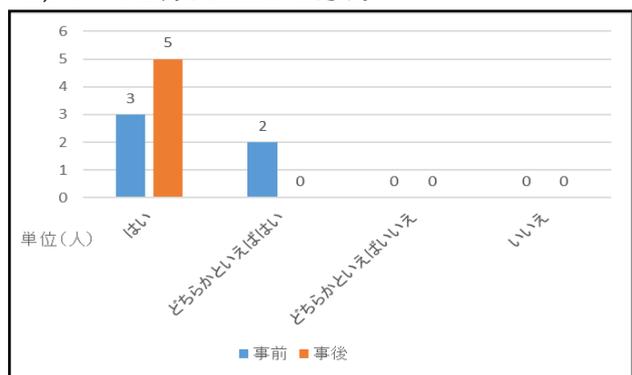
インターネットやゲームはとても楽しいものであるため、時間を気にせずに好きなだけ使うようにすると良いと思う。



インターネットやネットゲームをする時は、相手の時間を考えて、時間を決めて使うことは良いことだと思う。



インターネットやゲームをしはじめる時に、お互いのことを考えて、自分たちで考えた時間がきたらやめるよう相談し、ルールを決めるとよいと思う。



## 事後アンケート

1. ふだんの授業で、グループ学習の時に、いつも積極的に発言していると思いますか？

( はい 1名 , どちらかといえばはい 1名 , どちらかといえばいいえ 2名 , いいえ 1名 )

2. アニメーション教材の事例の登場人物それぞれの気持ちを考えることは難しかったですか？

( はい 0名 , どちらかといえばはい 1名 , どちらかといえばいいえ 4名 , いいえ 0名 )

3. ユキやシンジについての質問を個人で考えることは難しかったですか？

( はい 1名 , どちらかといえばはい 2名 , どちらかといえばいいえ 1名 , いいえ 1名 )

5. グループで質問を出し合う場面は、ふだんの話し合いの時より発言できましたか？

( はい 2名 , どちらかといえばはい 2名 , どちらかといえばいいえ 1名 , いいえ 0名 )

6. グループで質問を3つ選ぶための話し合い中で、自分だけではわからなかったことに気付いたり、知ったりできましたか？

( はい 2名 , どちらかといえばはい 2名 , どちらかといえばいいえ 1名 , いいえ 0名 )

7. 質問を選んだ理由を考えるための話し合い中で、自分だけではわからなかったことに気付いたり、知ったりできましたか？

( はい 3名 , どちらかといえばはい 1名 , どちらかといえばいいえ 1名 , いいえ 0名 )

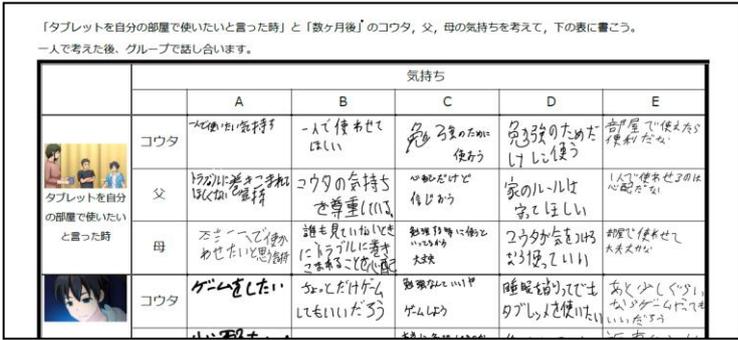
## 生徒の感想 など

- ・僕はこの授業を通して情報モラルは大切だと思った。なぜならパソコンやタブレット端末端末なしでは生きられなくなってしまうから。対策をしていたら依存性は少なくなると思う。例えば、勉強に影響が出ない程度にゲームをする。僕はこの授業を生かして時間を有効に使い、家族との時間を大切にしていきたい。
- ・僕はインターネットやゲームをするときはよく考えて行動することが大切だと思った。インターネットやゲームはルールを作って使うことも大切だと思った。なぜなら考えないとトラブルに巻き込まれやすくなると思ったからだ。例えば、どれぐらい長くインターネットを使うか考えて、事前に利用時間を決めて行う。インターネットやゲームをするときはよく考えて行動することを大切に、僕はインターネットやゲームの利用に気を付け、勉強とのバランスを考えるようにしていきたい。
- ・僕はやはり話し合うのは大切だと思いました。なぜなら、自分だけではわからなかったことに気付くことができるからです。例えば、今回でも自分が気付かなかったことを話し合いによって知ることができました。今回の話し合いではあまり積極的に発言できなかったのですが、話し合いを大切に、僕は積極的に参加していきたい。
- ・僕は自分の体調に合わせて正しくタブレット端末を使えていると思った。なぜならタブレット端末が健康に及ぼす影響や使い方について十分理解できているからだ。例えば、ブルーライトで目を悪くしないように暗いところで使わないことや、ネットショッピングをする際は購入者のコメントなどを見てその商品が自分に見合ったものかを判断したり、怪しいサイトにアクセスしないように心掛けたりしている。タブレット端末の特性を大切に、僕は正しい使い方をみんなに広めていきたい。
- ・ネット依存はよくないと思います。普通の生活ができなくなるからです。引きこもりになり社会に関われなくなったり、ネットの情報ばかり信じこんだり、スマホやゲーム機がないと落ち着かなくなったりするからです。自分で考えることを大切に、僕はネットを使っていきたい。

## 情報モラル教育の授業実践評価

生徒について	生徒の 興味関心の度合い	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">○</p> <p>理由・感想等 質問作り（Q F T）の手法を使った授業展開は生徒にとっても新鮮で興味をもって積極的に取り組むことができた。</p>
	生徒の理解度	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">○</p> <p>理由・感想等 自分の意思や周囲への心遣いなどについての感想や意見が多く、よく理解している感想やまとめが多かった。</p>
	生徒の 変容の度合い	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">○</p> <p>理由・感想等 生徒が感じたことを日常につなげるには壁があると感じた。相手や機器設定など周囲のものの助けを借りて気を付けていきたいという意思を聞くことができた。主体的に話し合う様子は回数を重ねるごとに上達が見られた。</p>
授業について	事前準備の難易度	<p style="text-align: center;">1. 難                      2                      3                      4. 易</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">○</p> <p>理由・感想等 議論する題材や教材があれば実施可能である。記録した内容を投影するなど全体で共有する I C T機器を活用するとより効果的になる。</p>
	指導者にとっての 授業展開の難易度	<p style="text-align: center;">1. 難                      2                      3                      4. 易</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">○</p> <p>理由・感想等 授業展開の流れは毎回同じ様にできるため実施しやすい。題材の提示の仕方と、展開の区切りを見極めることが大切であると感じた。</p>
	授業の「ねらい」の 達成度	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">○</p> <p>理由・感想等 生徒主体となって話し合いが展開され、自分たちで問題の発見、解決を行うことができた。</p>
	指導方法の 効果の度合い	<p style="text-align: center;">1. 低                      2                      3                      4. 高</p> <p style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;">○</p> <p>理由・感想等 人数が少なく、生活経験の浅い生徒同士の話し合いでは深めることが難しかった。</p>
<p>&lt;実践の感想及び反省点等&gt;</p> <p>繰り返し実施することで、話し合いをすることが上達し、さまざまな題材に応用することができた。意見交換できる人数が少なく、生活経験の幅が狭い生徒同士の話し合いでは、検討事項を深めることがなかなか難しかったので、他校の生徒とも一緒に話し合いができるような環境を築いていけるとよい。</p>		

# 情報モラル教育の授業実践例

配当時間	学習のすすめ方	指導のポイント
導入 5分	1 本時の学習方法, 題材について知る。 ・「質問づくり」の手法について知る。 ・「ネット依存」について扱うことを確認する。  2 ネット依存スクリーニングテストの結果を振り返る。 ・ネット依存スクリーニングテストについては, 事前に実施しておく。	・生徒たちで質問を考えて進めるため, 正解はなく, 思ったことをそのまま発言すればよいことを伝える。  ・ネット依存スクリーニングテストの結果を元に点数による判定基準を伝え, 参考にするように伝える。
展開 35分	3 アニメーションを視聴する。 「L 3-27 ゲームがやめられない」 (金城学院大学長谷川元洋教授からビデオ教材を借りて使用)  4 登場人物それぞれの思いに寄り添い, 気持ちについて考える。  5 登場人物の気持ちや行動に関する質問を考え, 集める。 ・アニメーションを見て浮かんだ疑問を順番に発表する。 <div data-bbox="280 1357 1098 1599" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         &lt;質問づくりの5つのルール&gt;                          ② 第三者の立場で質問を考える。                          ②できるだけたくさんの質問を出す (この段階では質より量)。                          ③浮かんだ疑問は口に出し, そのまま伝える。                          ④質問の答えについては後で考える。                          ⑤肯定文として浮かんだものは, 質問文に転換する。                     </div> <div data-bbox="328 1608 1066 2065" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         &lt;質問考察シート&gt; 年     スタディ                          考えた質問を一つずつ書いてください。                          1. <u>最初がゲームを止めたのだけ?</u>                          2. <u>本当に勉強のために使うのか?</u>                          3. <u>調べたってのはなにが?</u>                          4. <u>本当に勉強の目的だったのか?</u>                          5. <u>親が心配していることを分かってたのか?</u>                          6. <u>普段はどんなゲームをやっているのか?</u>                          ゲームの時間を制限する                          親の意見を聞き                     </div>	・アニメーションを途中 (2分3秒) で停止し, 結末を見せずに生徒が考えるように示す。  ・場面ごとに登場人物の気持ちをワークシートに記入するように伝える。 ・思いついたことを素直に記入すればよいことを伝える。  ・5つのルールを守るように伝える。 ・いろいろな視点の疑問が予想されるが, 指導者はあまり修正しないで観察する。

6 重要だと思う質問を3つに絞る。

- 出された質問に順位を付けたり、似たものを統合したりする。
- 上位3つに選んだ質問と選んだ理由をワークシートに記入する。

7 重要だと思う3つの質問を基に自分たちの生活にどう生かすかを話し合う。

- 生徒たちが焦点を当てたいもの、最も大切なもの、更に探究したいもの、具体的な行動につなげられるものなどの選択基準を示す。
- 選んだ理由も一緒につけて絞るように促す。
- 話し合いの様子をしっかりと観察する。
- 指導者の意図しない方向に進むこともあるが、その集団の実態と捉え、今後の指導に生かす。

8 自分自身を振り返り、PREP+A法を使って文章で表現することを伝える。

- ワークシートに本時の振り返りを記入する。

9 個々の振り返りを発表し合う。

10 事後アンケートに取り組む。

- 回答しやすいように答える枠組みを用意する。
- 今後の活動につなげることの大切さを説明する。
- 時間がない場合は、授業を通して感じたこととその理由のみ先に記入するように伝える。
- 話し合いの様子ややりとりでよかった部分を大いに褒める。
- 本時の学習を受け、ネット依存についての考えの変化についてアンケートを通して確認する。

まとめ

5分

授業の成果

- 生徒主体の授業を行うことができた。
- 指導者が導かなくても生徒の対話から重要なポイントを押さえることができた。
- 繰り返し取り組むことで、生徒同士の話し合いが上達した。
- 指導者が生徒の目の届く範囲にすることが多いため、生徒同士の話し合いや決断の機会を減らしていることに気付くことができた。更に話し合いの場を増やし、生徒同士が問題解決できる力を付けていきたい。

<p>授業の課題と改善案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換できる人数が少なく、生活経験の幅が狭い生徒同士の話し合いでは、課題に対する検討事項を深めることがなかなか難しかった。ICT機器をうまく活用し、他校の生徒や他の集団と一緒に取り組めるような環境を築いていけるとよい。</li> <li>・生徒が感じたことを日常につなげるには壁があると感じた。トラブルに対して自覚するきっかけづくりとなるような授業を行う。</li> </ul>
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 情報モラル教育を広げるための方策と課題

<p>情報モラル教育を広げるための実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践の様子を参観してもらう。</li> <li>・他の先生に同じ方法で実施してもらう。</li> <li>・校内研究会で報告、紹介するなど情報提供を行う。</li> </ul>
<p>情報モラル教育を広げるための課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の中に位置付け、さまざまなグループで取り組んでもらうなど、多くの先生方の意識を高める。</li> <li>・特別支援学校（特に肢体不自由特別支援学校）で話し合える対象生徒が少ない。他校と連携して授業展開ができるとよい。</li> </ul>